特15
449

法學博士 鳩山和夫 校閲
辯護士 大橋誠一
辯護士 嶋村次男 共著

新刑法註釋書 全

明治
118
内交

水戸 廣英舍發行

改正刑法註釋目次

改正刑法案ノ改正要點　一
第一編　總則
第一章　法例　一
第二章　刑　二
第三章　期間計算　一三
第四章　刑ノ執行猶豫　二七
第五章　假出獄　五二
六三　五六

第六章　時効　六七
第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免　七二
第八章　未遂罪　九〇
第九章　併合罪　九三
第十章　累犯　一〇九
第十一章　共犯　一一六
第十二章　酌量減輕　一二二
第十三章　加減例　一二四
第二編　罪　一三三

第一章　皇室ニ對スル罪　一三三
第二章　内乱ニ關スル罪　一四一
第三章　外患ニ關スル罪　一五〇
第四章　國交ニ關スル罪　一六四
第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪　一七二
第六章　逃走ノ罪　一七八
第七章　犯人藏匿及証憑湮滅ノ罪　一八六
第八章　騷擾ノ罪　一九〇
第九章　放火及ヒ失火ノ罪　一九七

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪　二二〇
第十一章　往來ヲ妨害スル罪　二二八
第十二章　住居ヲ侵スノ罪　二三九
第十三章　秘密ヲ侵ス罪　二四六
第十四章　阿片煙ニ關スル罪　二五三
第十五章　飲料水ニ關スル罪　二六一
第十六章　通貨僞造ノ罪　二七〇
第十七章　文書僞造ノ罪　二八一
第十八章　有價証券僞造ノ罪　三〇一

第十九章　印章僞造ノ罪　三〇四
第二十章　僞証ノ罪　三一一
第二十一章　誣告ノ罪　三二八
第二十二章　猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪　三三四
第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪　三五六
第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪　三六五
第二十五章　瀆職ノ罪　三七三
第二十六章　殺人ノ罪　三八六
第二十七章　傷害ノ罪　三九五

第二十八章　過失傷害ノ罪　四〇六
第二十九章　墮胎ノ罪　四一一
第三十章　遺棄ノ罪　四二一
第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪　四二五
第三十二章　脅迫ノ罪　四二九
第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪　四三五
第三十四章　名譽ニ對スル罪　四四五
第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪　四五〇
第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪　四五二
第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪　四六八
第三十八章　横領ノ罪　四七九
第三十九章　贓物ニ關スル罪　四八四
第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪　四八七
舊刑法（參照）　四九七

刑法改正案ノ改正要點

總則

一　刑ノ量定其宜シキヲ得タルコト例ヘバ現行法ニ於テ嬰兒壓殺ノ如キハ減刑シテ重懲役九年ナリシヲ三年迄減ゼラルヽガ如キ是ナリ（案一九九）

二　執行猶豫ノ範圍ヲ擴張シテ期間中犯罪ヲ犯サザリシ者ニ免刑主義ヲ採リシヲ無罪主義トシタルコト（案二七）

三 刑法ノ効力ヲ或種ノ犯罪ニ限リ帝國領土外ニ及ボスノ規程ヲ設ケタルコト（案二、三、四）

四 監視ヲ全廢シタルコト

五 公權剝奪ノ規定ヲ削除シタルコト

六 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ヲ罰セザル規程ヲ設ケタルコト例ヘバ外科醫ガ過失ニ因リ患者ニ苦痛ヲ與ヘタル場合ヲ過失罪トシテ罰セズ（案三五）

七 正當防衛權ノ規定ヲ總則ニ設ケテ現行法ノ如ク殺傷ノ場合ニ止メズシテ其範圍ヲ擴張シタルコト（案三六）

八 避難權（緊急狀態）ノ規定ヲ總則中ニ設ケテ其意義ヲ明カニシタルコト（案三七）

九 心神喪失者ト心神耗弱者トノ區別ヲ設ケ前者ヲ不論罪トシ後者ハ減刑スベキコトヲ規定シタルコト（案三九）

十 併合罪ノ規定ヲ設ケタルコト（案四五乃至五五）

十一 累犯ノ規定ヲ設ケタルコト（案五六乃至五

九）

十二未決拘留ノ全部又ハ一部ヲ刑期ニ算入スルノ自由ヲ裁判官ニ授ケタルコト（案二一）

各論

一皇太子皇太孫ニ對スル危害罪ヲ天皇太皇太后皇太后皇后ニ對スル危害罪ト同一トナシタルコト（案七三）

二帝國滯在ノ外國君主又ハ大統領使節ニ對シ暴行脅迫侮辱ヲ爲シタル者ヲ罰スル規定ヲ設ケタルコト（案九〇、九一）

三外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗國章ヲ損壞シタル者ヲ罰スル規定ヲ設ケタルコト（案九二）

四公務員（現行法ノ官吏）侮辱罪ノ規定ヲ廢シタルコト

五騷擾罪（現行法ノ兇徒聚衆罪）ニ何等ノ目的ヲ問ハズトノ文字ヲ削除シタルコト（案一〇六）

六 瓦斯電氣蒸汽ヲ漏泄流出又ハ遮斷シタル者ヲ罰スル規定ヲ設ケタルコト（案一一八）

七 封緘シタル信書ヲ開披シタル罪ヲ設ケ又醫師藥劑師藥種商産婆辯護士公證人及ビ宗教禱祀等ヲ業トスル者又ハ其職ニ在リタル者ニシテ職務上知得シタル秘密ヲ漏洩シタル罪ヲ設ケタルコト（案一三三、一三四）

八 公務員其職ニ關シ虚僞ノ文書ヲ僞造變造シタル罪公務員ニ對シ虚僞ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ僞造變造シタル罪醫師ガ公務署ニ提出スベキ診斷書檢案書死亡證書ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル罪公債證書官府ノ證券會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ僞造變造シタル罪ト各官私文書ノ僞造變造罪ヲ區別シテ規定シ其寛嚴宜シキヲ得タルコト（案一五六、一五七、一五九、一六〇、一六二）

九 僞證罪及誣告罪ノ反座ヲ廢シタルコト

十 懲戒裁判ニ於ケル僞證誣告ヲモ罰スル規定ヲ設ケタルコト（案一六九）

十一 人ノ心神喪失又ハ抵抗不能ニ乘ジ猥褻又ハ姦淫ヲ爲シタル者ヲ罰スル規定ヲ設ケタルコト（案一七八）

十二 娛樂ニ爲シタル賭事ヲ罰セズ又財物ヲ賭スルト雖モ常習ナキ者ニ對シテハ懲刑ヲ科セザルコト（案一八五、一八六）

十三 公務員職權ヲ濫用シテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フベキ權利ヲ妨ゲタル者ヲ罰スル規定ヲ設ク（案一九三）

十四 公務員收賄罪ヲ設ケタルコト（案一九七）

十五 贈賄者ヲ罰スル規定（案一九八）

十六 殺人放火溢水其他現行法ニ於テ死刑又ハ無期刑ニ當ル犯罪ハ死刑、無期又ハ三年以上ノ體刑ト爲シテ殊ニ犯罪事情等ヲ參酌シ寬嚴ノ運用ヲ法官ニ一任シタルコト（案一九九、二〇八、二一九）

十七 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シタル者ヲ罰スル規定ヲ設ケタルコト

（案二二六）

十八名譽毀損（現行法ノ誹毀罪）ノ體刑ノミナリシヲ體刑又ハ罰金刑ノ選擇刑ト爲シタルコト（案二三〇）

十九強盜竊盜ノ罪ニ重刑ヲ科シ竊盜ノ最長期四年ヲ十年トシタリ（案二三五、二三六）

二十詐欺及恐喝取財ノ罪ニ重刑ヲ科シ前項ト同規トス（案二四六）

新刑法註釋

第一編　總則

本編ハ現行法ノ第一編ト同ジク各般ノ罪ニ共通スル規定ヲ網羅シタルモノナリ其現行法ト異ナル所ヲ擧グレバ現行法ノ第一編總則ヲ章節ニ分ツヲ廢シテ單ニ章ノミニ分テリ現行法第二章第一節刑名ヲ刑ト改題シ同第二章第五節刑期計算ヲ第三章ト爲シ期間計算ト改題シ刑期及時効期間ノ計算ニ其適用ヲ有セシメ第四章トシテ新ニ刑ノ執行猶豫ノ規定ヲ設ケ同第二章第七節期滿免除ヲ他ノ法律ノ

用語ニ一致セシメテ時効ト改題シ之ヲ第五章ト爲シ同第四章不論罪及ビ減輕第一節不論罪及宥恕減輕第二節自首減輕ニ關スル規定ニ正當防衛ノ規定ヲ加ヘテ之ヲ第七章犯罪ノ不成立及刑ノ減免ト改題シ第八章未遂罪第九章併合罪トシ仝第五章再犯加重ヲ第十章累犯ト改題シ第十一章共犯同第四章第三節酌量減輕ヲ獨立ノ一章トシテ第十二章ニ規定シ同第三章ノ加減例及第六章ノ加減順序ヲ合セテ第十三章加減例ト題シタリ現行法ハ第二章第四節ニ徴償處分ヲ規定スト雖モ徴償處分ニ關スル規定ハ其性質上刑事訴訟法ニ屬スベキモノナルヲ以テ之ヲ削除シ第十章ニ親族例ヲ規定スト雖モ之ヲ削除シタルハ民法ニ規定セル親族例ニ據ラシムベキ趣旨ニ因ル

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

本條乃至第五條ハ現行法ノ缺如スル規定ヲ新ニ補足シタルモノナリ

本條第一項ハ本法ノ効力ノ及ブ可キ土地ノ範圍ニ

關スル原則ヲ規定シ帝國臣民タルト又ハ外國人タルトヲ問ハズ我帝國內ニ在テ罪ヲ犯シタル者ハ本法ノ支配ス可キ旨ヲ定メ古來存在スル屬地主義屬人主義ノ中前者ヲ採リタルモノトス

第二項ハ帝國外ニ在ル帝國ノ船舶內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キテモ亦原則トシテ本法ヲ適用スベキコトヲ定メタルモノニシテ從來船舶ニ付テハ之ヲ其所屬國領土ノ一部ト看做シ之ニ所屬國法ヲ適用ス可シト爲ス見解ト必要ニ應ジテ所屬國法ヲ適用ス可シト爲ス見解トノ區別アリ本案ハ第二ノ主義ヲ採レリ

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一第七十三條乃至第七十六條ノ罪
二第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三第八十一條乃至第八十九條ノ罪
四第百四十八條ノ罪及其未遂罪
五第百五十四條第百五十五條第百五十七條及ヒ第百五十八條ノ罪
六第百六十二條及ヒ第百六十三條ノ罪

七第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項第百六十五條第二項第百六十六條第二項ノ未遂罪

本條ハ帝國外ニ於テ生ヲタル罪ニ本法ヲ適用ス可キ場合ヲ規定シタルモノナリ

帝國外ニ於テ生ヲタル罪ト雖モ尚ホ之ヲ所罰スル必要アルヲ以テ外國ニ於テ皇室又ハ帝國ニ對スル罪等ヲ犯シタル者ニ特ニ此法律ヲ適用スベキコトヲ規定シタリ蓋シ此種ノ罪ハ我國ノ安寧秩序ヲ害スルコト甚ダ大ナルニ拘ラズ外國ニ在テハ却テ何等ノ罪ヲモ構成セザル場合尠シトセズ從テ我國ニ

於テ之ヲ處罰スル必要アレバナリ

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷スベキ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二第百十九條

三第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪

四第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

五第百七十六條乃至第百七十九條第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪

六第百九十九條第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪

七第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪

八第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪

九第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二第二百三十條ノ罪

十三第二百三十五條第二百三十六條第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

十四第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五第二百五十三條ノ罪

十六第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ

犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

本條第一項ノ規定ハ屬人主義ヲ採リ第二項ノ規定ハ保護主義ヲ採リタルモノニシテ帝國外ニ於テ生命、身体、自由、財産又ハ信用ニ關スル罪ヲ犯シタル帝國臣民及ビ外國人ニモ亦本法ヲ適用ス可キ旨ヲ規定シタリ蓋シ國外ニ於テ生ジタル罪ハ原則トシテ之ヲ所罰スルノ必要ナシ然レド外國ニ於テ生ジタル罪ガ帝國ノ秩序ニ害アルトキハ其秩序維持ノ必要上之ニ本法ヲ適用セザル可カラズ本案ハ帝國臣民ガ帝國外ニ於テ又ハ外國人ガ帝國臣民ニ對シ帝國外ニ於テ本條列記ノ罪ヲ犯スヲ以テ秩序ニ害アルモノトセリ

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一　第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二　第百五十六條ノ罪

三　第百九十三條第百九十五條第二項第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

本條ハ前條第一項ト同ジク屬人主義ヲ採リ帝國外

ニ於テ職務ニ關スル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ本法ヲ適用スル規定ナリ

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ所罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減刑又ハ免除スルコトヲ得

前數條ノ規定ノ適用ニ依リ犯人ガ既ニ外國ニ於テ確定判決ヲ受ケタル後尙ホ本法ニ依リ處罰セラルルコトナシトセズ然ルトキハ一個ノ行爲ニ付キ再度ノ處罰ヲ受クル不幸ニ遭遇シ過酷ノ嫌ナキ能ハズ故ニ本條ハ本文ニ於テハ外國ノ確定裁判ヲ受ケタル者ニ對シ更ニ之ヲ處罰スル旨ノ原則ヲ掲ケタリト雖モ但書ハ既ニ外國ニ於テ刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタル犯人ニ付テハ刑ヲ言渡ス際刑ノ執行ヲ減免スルヿヲ得ベキ旨ノ除外例ヲ認メタリ

第六條　犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス（刑三）

本條ハ現行法第三條ニ該當スル規定ニシテ現行法第三條第一項ニ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ボ

スコトヲ得ズトアルハ自明ノ理ニシテ結局贅文タルニ過ギザレバ本案ニ於テハ之ヲ削除シタリ

現行法第三條第二項ニ於テハ新舊ノ法ヲ比照シ云云ト規定スルヲ以テ只二回ノ刑ノ變更アリタル場合ノミヲ豫想セシヤノ疑ナキ能ハズ故ニ本案ハ單ニ其輕キモノヲ適用スト修正シテ假令三回四回等幾回ノ變更アリタル場合ト雖モ其各刑ヲ比照シテ其輕キ刑ヲ適用スルニ付キ其疑ヲ除ケリ

又既ニ適用スト言ヘバ其裁判確定前ナルコトモ亦自ラ明白ナルベキヲ以テ未ダ判決ヲ經ザル云々ノ字句ヲ削除シタリ

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

現行法ハ官吏及ビ官署ノ規定ヲ設ケタルノミナレバ之ガ欠点ヲ補フ爲メ明治二十三年法律第百號ヲ以テ公吏及ビ公署ハ刑法上之ヲ官吏及官署ト同視スル旨ヲ規定シタリト雖モ其他ノ職員ニシテ刑法上之ヲ官吏ト同視スベキ者尠ナカラズ然レドモ此

等ノ職員ノ種類ニ至リテハ議員委員等其種類多クシテ一々之ヲ列擧スルコトハ到底不能ニ屬スガ故ニ本案ニハ公務員及ビ公務所ナル語ヲ用ヒ其如何ナルモノヲ公務員又ハ公務所ト稱スルヤヲ示シタルモノナリ

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス（刑五）

現行法第五條第二項ヲ本條ノ本文トシ其第一項ヲ本條ノ但書ト爲シタリ

又現行法ニ法律規則トアルヲ改メテ法令トナシタルハ今日ニ於テ規則ノ名目ヲ以テ發布スル形式ナキノミナラズ現行法ノ趣旨モ亦單ニ法令ト云フ意ニ過ギザレバナリ

第二章　刑

本章ニ於テハ現行法第一編第二章第一節第二節及ビ第三節ノ規定ヲ總括シ刑ノ種類及ビ其執行方法ヲ定メタリ而シテ剝奪公權、停止公權ノコトハ各公權ノ事ヲ規定シタル特別法即チ選擧法ニ於テハ選擧權被選擧權ノ事ヲ規定ス可ク恩給法ニ於テハ恩給又ハ退隱料等ノ事ヲ規定ス可ク兵籍ニ入ルノ資格ニ關シテハ徵兵令ニ於テ其規定ヲ設クレバ可ナ

ル如ク各特別法令ノ規定ニ讓ルヲ以テ尤モ適當ニシテ且便利ナリトシ此ニ關スル規定ハ全部之ヲ削除セリ

又監視ノ制度ハ徒ニ出獄者ヲ拘束シ利ヲ收ムルヨリ却テ害多キモノナレバ之ヲ削除セリ然レドモ强窃盜、詐欺取財等ノ如キ監視ヲ科スル必要アル性質ノ犯罪ハ其刑ノ範圍ヲ擴張シ以テ其必要ヲ補ヘリ

第九條　死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

本條ハ刑名ニ關スル規定ニシテ現行法第六條乃至第十條ノ規定ヲ總合シタルニ過ギズ

死刑ノ存廢ニ付テハ從來學說相分ルヽ所ニシテ外國ニ於テハ死刑ヲ廢シタル立法例ナキニ非ズト雖モ今日ノ狀況ハ未ダ之ヲ全廢スルコトヲ許サズ死刑廢止ハ理論ニ於テハ之ヲ理想トスベキモ實際ノ成果ヲ擧グルニハ猶ホ之ヲ存置スルノ必要ヲ認メ本案亦死刑ヲ存セリ

懲役、禁錮ハ共ニ改正案ノ新ニ認メタル自由刑ニシテ懲役ニハ定役ヲ科シ禁錮ニハ定役ヲ科セズ

現行法ハ重罪、輕罪ノ自由刑ヲ定役ノ有無ニ依テ區別シ更ニ之ヲ數種ニ分チ刑期ノ長短ニ依リ僅ニ其輕重ヲ區別スト雖モ其執行方法ニ至リテハ殆ド其輕重ヲ區別ス可キ標準アルコトナシ又多數ノ階級

ヲ設ケタル結果トシテ刑期ノ範圍狹隘ニ失シ適當ナル刑ノ適用ヲ爲シ得ザルノ弊アリ本案ガ重罪、輕罪、違警罪ノ區別ヲ廢止シタルハ因リテ以テ自由刑ノ刑期ノ範圍ヲ擴張セント欲シタルニ在リ故ニ本條ニ於テハ現行法ノ徒刑、懲役及ビ重禁錮ヲ合シテ之ヲ懲役ト爲シ流刑、禁獄及輕禁錮ヲ合シ之ヲ禁錮ト爲シ定役ノ有無ニ依リテ判然二者ヲ區別シタリ

罰金ニ付テハ現行法ハ附加ノ罰金刑ヲ認ムト雖モ主刑タル罰金ト附加刑タル罪金トヲ區別スベキ理由ナキガ故ニ本案ハ附加刑タル罪金ヲ認メザリキ

拘留及科料ハ現行法上違刑罪ノ主刑タルモノニシテ改正案ハ之ヲ存置シタリ

本案ニ於テハ附加刑ノ單ニ沒收ノミヲ存シ剝奪公權、停止公權、監視、罪金タル附加刑ヲ廢シセシコト前述ノ如シ

第十條

主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但シ無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノヲ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ

多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

本條ハ主刑ノ輕重ヲ定ムル標準ヲ示スモノニシテ現行法之ヲ缺如セリ第一項ハ異種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ死刑ヲ以テ最重ノ主刑トシ懲役之ニ次ギ禁錮更ニ之ニ次ギ罰金又之ニ次ギ拘留又之ニ次グモノトシ科料ヲ以テ最輕ノ主刑トス然レドモ無期禁錮ト有期懲役トハ當然無期禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ト雖モ其刑期有期懲役ノ刑期ヨリ長キトキハ場合ニ依リ有期懲役ヨリ重キモノトス爲スコトヲ明ニセリ第二項及ビ第三項ハ同種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ更ニ刑期ノ長短金額ノ多寡ニ差異アル同種ノ刑ト否ラザル同種ノ刑トニ區別シ其差異アルモノニ付テハ第二項ニ記載シタル標準ニ依リ其差異ナキモノニ付テハ第三項ニ記載シタル標準ニ依リ其輕重ヲ定ムルコトヽセリ

第十一條　死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス（刑一二）

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

本條第一項ハ現行法第十二條ニ同ジ現行法ニ於テハ死刑ハ絞首ストノミアルヲ以テ絞首ニ依リ一旦絶命シタル後蘇生スルコトアルモ更ニ絞首シ得ルヤ否ヤ不明ナリシガ本案ハ絞首シテ執行スト雖モ以テ死亡ニ至ルマデハ幾度ニテモ絞首シ得ベキコトヲ明ニシ現行法ノ疑問ヲ除ケリ第二項ハ現行法ニ無キ規定ニシテ從來ノ死刑執行前拘置ス可キ場所ニ付テノ疑問ヲ除キ監獄ニ拘置ス可キコトヲ明ニセリ

第十二條　懲役ハ無期及有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

前述ノ如ク本案ノ懲役ハ現行法ノ徒刑、懲役及ビ重禁錮ヲ併合シタル刑ニシテ之ヲ通算スレバ重禁錮十一日以上有期徒刑十五年以下ニシテ其範圍ハ本案ノ方却テ狹小ナリ

第二項ハ懲役ノ執行方法ヲ規定シタルモノニシテ現行法第十七條第一項第二十二條第一項及ビ第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當ス

第十三條　禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第一項禁錮ハ現行法ノ流刑、懲役及輕禁錮ヲ合併シタルモノニシテ其刑期ニ就テハ前條第一項ノ説明ニ同シ

第二項ハ禁錮ノ執行方法ニ關スル規定ニシテ現行法第二十條第一項第二十三條第一項及第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當ス禁錮ト懲役トノ異ナル点ハ禁錮ニハ定役ヲ科セザルニ在リ

第十四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

本案ハ懲役及ビ禁錮ノ長期ヲ十五年短期ヲ一月トト規定シタリ之ヲ以テ加重ノ結果其刑期十五年以上トナリ減刑ノ結果一月以下ニ處ス可キトキハ果シテ之ヲ如何ナル刑ト爲ス可キヤノ疑ナキ能ハズ現行法ハ第七十一條ニ於テ禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處スル旨ヲ規定シアリト雖モ改正案ハ特別ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノト爲シタリ其結果トシテ特別ノ場合ニ於テハ刑期一月以下ノ懲役又ハ禁錮アリ得ベシ而シテ本案ハ單ニ一月以下ト謂フト雖モ第六十八條及ビ第七十條ノ規定ニ依レバ如何ナル場合ト雖モ事實上七日以下ニ降ルコトナシ

第十五條　罰金ハ二十圓以上トス但シ之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得（刑二六ノ修正）

現行法ハ罰金ヲ二圓以上科料ヲ五錢以上一圓九十五錢以下トシタル結果一圓九十九錢九厘以下一圓九十五錢一厘以上ハ罰金ニモ又ハ科料ニモアラザル中間ノモノヲ生ズ本案ハ之ヲ妥當ナラズトシ罰金ヲ二十圓以上科料ヲ二十圓未滿トシタリ現行法第二十六條ノ仍ホ以下ハ無用ノ語句ヲトシテ之ヲ刪除セリ

本條但書ハ懲役及ビ禁錮ニ付キ前條ヲ設ケタルト同一ノ理由ニ因リ之ヲ設ケタルモノトス

第十六條　拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留所ニ拘置ス（刑二八）

本條ハ現行法第二十八條ト其趣旨同ジト雖モ拘留ノ期間ハ一日以上三十日未滿トシタリ現行法ハ一日以上十日以下トナシ之ヲ加重スト雖モ尚ホ十二日ニ至ルニ過ギズシテ實際上其範圍狹隘ニ失シタリ

第十七條　科料ハ十錢以上二十圓未滿トス（刑二九ノ修正）

現行法ハ科料ノ金額ヲ五錢以上一圓九十五錢ト定メ加重ノ結果二圓四十錢ニ至ルニ過ギザラシムルヲ以テ其範圍頗ル狹隘ニ失スレバ之ヲ修正シタルモノナリ

第十八條　罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日內科料ニ付テハ裁判確定後十日內ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分

ナ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ハ犯人ヨリ金額ヲ徵收スル刑ナレバ犯人カ無財産ノ場合ニハ此刑ヲ執行スルコト能ハス此場合ニ採ルベキ方法二アリ第一ハ現行法ノ採レル換刑處分ニシテ罰金又ハ科料ヲ換算シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スベキモノトス然レバ被告人ハ徒ニ獄中ニ呻吟スルニ止マリ國家ハ却テ經費ヲ損耗スルコトヽ爲リ金刑本來ノ趣旨ニ反スルガ故ニ本案ハ第二ノ方法ヲ採リ罰金科料ヲ納ムルコト能ハザル犯人ハ之ヲ勞役場ニ留置シテ其自由ヲ制限スルト共ニ便宜勞役ニ從事セシメ其利得ヲ以テ罰金又ハ科料ノ幾分ニ充テシコトヲ期シタリ

科料ハ之ヲ併科スルコトヽナレルガ故ニ各科料ニ付キ留置日數ヲ定ムルトキハ不當ノ長期ニ達スル虞ナキニアラズ是レ第三項ニ於テ其期間ヲ二月ニ制限シタル所以ナリトス

現行法ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルト否トハ之ヲ本人ノ自由ニ任ス其結果財産アル者ト雖モ往往之ヲ完納セスシテ換刑ヲ請求スルコトナキニアラズシテ罰金又ハ科料ノ目的ヲ達スル所以ニアラズ本案ハ之ヲ非トシ財産アルモノハ必ズ金錢ヲ納メシメ財産ナキ者ニ限リ始メテ換刑シテ之ヲ留置スルコトヽ爲セリ

又現行法ハ罰金又ハ科料ノ金額ト禁錮又ハ拘留ノ日數トノ割合ヲ定メ一日ヲ一圓ニ折算スト規定セルヲ以テ若シ罰金又ハ科料ノ金額多大ナル場合ニ於テハ罰金又ハ科料ノ一部ハ事實上之ヲ拋棄スルト同一ノ結果ヲ生ス改正案ハ此ヲ採ラス裁判所ヲシテ罰金又ハ科料ノ額ニ應シ一日以上一年以下ノ期間内若クハ一日以上三十日以下ノ期間内ニ於テ適宜ニ留置ノ日數ヲ定メシムルコトヽ爲セリ現行法ハ換算サルベキ禁錮ノ期限ヲ二年ニ限ルト雖モ近來ノ立法例ハ之ヲ短縮スル傾向アルノミナラス實際上酷ニ過クル虞アルヲ以テ改正案ハ之ヲ一年ニ短縮セリ

現行法ハ罰金完納ノ期限ヲ一月トシ科料完納ノ期限ヲ十日トシタリト雖モ本人ノ承諾アル場合ニ於テモ常ニ其期限ヲ嚴守セシムルハ事宜ヲ得タルモノト謂フ可カラズ本案ハ本人ノ承諾アルコトヲ條件トシテ裁判確定後三十日内若クハ十日内ニ於テ

モ亦換刑シテ留置ノ處分ヲ爲シ得ヘキモノト規定シタリ又現行法ハ罰金又ハ科料ノ一部ノミヲ納メタル場合ニ付テノ規定ヲ缺如スルヲ以テ改正案ハ第六項ニ於テ新ニ其規定ヲ設ケ第七項ニ於テ留置期間内罰金又ハ科料納メタル場合ニ付テモ亦第六項ノ規定ニ準スルコトヽ爲シタリ其結果或ハ留置一日ノ割合ニ滿タザル金額ヲ納ムルモノナキヲ保セスシテ之ヲ留置一日ニ當ラシムルトセバ納入者ハ不當ノ利得ヲ爲スヘク之ヲ留置一日ニ當ラシメントスレハ國家ハ不當ノ利得ヲ爲スベシ故ニ本案ハ第八項ヲ新設シテ留置一日ノ割合ニ滿タザル金額ノ納入ハ之ヲ禁制スル旨ヲ明定シタリ

現行法第二十七條ニ定メタル換刑手續ハ刑事訴訟法ニ規定スルヲ以テ適當トスルガ故ニ本案ハ之ヲ削除セリ

第十九條　左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一　犯罪行爲ヲ組成シタル物

二　犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三　犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキ

本條ハ現行法第四十三條及ヒ同第四十四條ノ規定ヲ合セタルモノナリ

現行法第四十三條第一號ノ法律ニ於テ禁制シタル物件トハ其意味明瞭ナラズ第二號及第三號ハ其範圍狹隘ナルヲ以テ本案ノ如ク改正セリ

本案第一號犯罪行爲ヲ組成シタル物トハ例ヘバ普通人ガ許可ヲ得ルコト無クシテ爆發物ヲ製造スレハ犯人ハ其製造ノ罪ニ囚リテ處罰セラルルガ故ニ此ノ爆發物ハ即チ犯罪行爲ヲ組成シタル物件ナリ

第二號犯罪行爲ニ供シタル物トハ殺人ノ用ニ供シタル刃劍ノ如シ而シテ之ヲ供セントシタル場合ハ後段ニ謂フ供セントシタル物ニ該當ス

第三號犯罪行爲ヨリ生ザタル物トハ僞造變造ノ文書ノ如キ物ヲ謂ヒ得タル物件トハ例ヘバ銃獵禁制ノ場所ニ於テ獲得シタル鳥獸ノ如シ

第二項ハ沒收スベキ物ハ犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限ルコトヲ規定セルモノニシテ即チ犯人以外ノ者ノ所有ニ屬セザルコト又假令犯人ニ所有權無キ場合ト雖モ同時ニ犯人以外ノ者モ亦所有權ヲ有セザル物ハ之ヲ沒收シ得ルコトヲ示セリ

第二十條　拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付

テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

拘留又ハ科料ヲ科スル罪ノ如キハ事態輕微ナレバ此種ノ罪ノ犯人ニ對シテハ常ニ沒收例ヲ適用スル必要ナシ故ニ本條ニ於テ特別ノ規定アルニ非ザレバ沒收ヲ科セザルコトヲ明定シ以テ現行法ノ不備ヲ補ヒタリ嘗犯罪行爲ヲ組成シタル物ノ如キハ其性質上犯人ニ所持セシムルコトヲ禁ズベキモノナレバ罪ノ輕重ヲ問ハズ寧ロ行政處分トシテ之ヲ沒收スベク故ニ拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付キテモ例外トシテ沒收ヲ科スルコトヲ得セシメタル所以ナリ

第二十一條　未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

本條ハ現行法ニ存在セザル規定ニシテ本案ニ於テ新設セラレタル重要ノ規定ナリ從來檢事豫審判事及公判ノ審理ノ爲メ未決囚ト入トシテ如何ニ長キ期間拘留セラレシ者ト雖モ愈々裁判確定ノ後判決ノ執行ヲ受クル場合ニハ言渡ヲ受ケタル全刑ノ執行ヲ受ケザルベカラズシテ比較的短期間ヲ以テ確定シタル判決ノ執行ヲ受クル者ニ比シテ不公平タル

ヲ免レズ固ヨリ未決留拘期間ノ長キハ檢事局若クハ裁判所ノ審理ノ都合ニ因ルコトアリト雖モ又犯人ガ無益ノ上訴ヲ爲シタルニ因ルガ如キ犯人ノ意思ニ原因スルコト又多シ故ニ一概ニ本條ノ利益ヲ與フルハ非ニシテ宜シク裁判官ガ其事情ヲ斟酌シテ其處分ヲ爲スヲ以テ可ナリトシ本條未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得ト規定シタル所以ナリ

第三章　期間計算

第二十二條　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

現行法ハ其第一編第二章第五節ニ於テ刑期計算ヲ規定スト雖モ刑法上期間ヲ計算スル必要ハ必ズシモ刑ノミニ付キテ生ズルニアラズシテ時効ノ如キモ亦之ヲ必要トス然ルニ刑期計算ト云ヘルハ現行法ノ缺点ニシテ本案ハ之ヲ補ヒ期間計算ト規定セリ而シテ本條ハ現行法第四十九條ニ該當スレドモ現行法ノ如ク一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシト云フガ如キハ殆ト適用ノナキ無用ノ規定ナレバ本案ハ斯カル事ヲ規定セズシテ單ニ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定ムベキ時ハ曆ニ從フトセリ

第二十三條　刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス（刑五一）

現行法ハ其第五十條ニ於テ裁判ハ確定後ニ非ザレバ執行セザルコトヲ規定シ第五十一條ニ於テ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルコトヽ爲シ特ニ上訴ノ場合ニ關シ煩雜ナル規定ヲ設ケタリ然ルニ第五十條ノ如キ規定ハ殆ト當然ニシテ特別ノ明文ヲ要セザルヲ以テ之ヲ刪除シ本案ハ第一項ニ於テ刑期ノ起算日ヲ改メ裁判確定ノ日ヨリスルコトヽ爲セリ是レ一方ニハ裁判確定後ニ非ザレバ執行セザルコトヲ示シ他ノ一方ニハ上訴ニ依リテ以テ萬一ノ僥倖ヲ得ントスル弊害ヲ防遏セントスルナリ

第二項ハ逃走又ハ保釋責付等ニ依リ裁判確定後ト雖モ猶ホ拘禁セラレザル者アリ此等ニ對シテモ同ジク裁判確定ノ日ヨリ其刑期ノ起算ヲ爲スコトヽナレバ此等ノ者ハ不當ニ利益ヲ得不公平タルヲ免レザルガ故ニ拘禁セザル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セザルコトヲ明ニセリ

第二十四條　受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦

同シ（刑四九ノ二）

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

本條ハ現行法第四十九條第二項ヲ修正シ且時効期間ノ初日ノ計算ニ關スル規定ヲ新設セルモノナリ

現法行ニハ放免ノ日ハ刑期ニ算入セズト謂ヒ改正案ニハ放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フト謂フト雖モ是唯文字ノ差異アルノミ其趣旨ニ至リテハ毫モ變更スル所ナシ

第四章　刑ノ執行猶豫

犯罪必罰ハ舊主義ニ屬ス蓋シ刑罰ヲ科スルハ其目的社會ノ秩序ヲ維持スルニ在レバ一時ノ慾情ニ驅ラレテ刑律ヲ犯スニ至リタルモ直ニ良心ニ立歸リ其非ヲ悔ユルガ如キ者ニ對シテモ尚刑罰ヲ科スルノ必要ナシ斯カル者ニ對シテ人生ノ至大汚辱タル刑罰ヲ科センカ却テ他ノ犯行ヲ敢行スル惡習ヲ助長スルニ過ギズ

本案ハ一般刑法ノ趨向ニ從ヒ刑ノ執行猶豫ヲ設ケ短期ノ自由刑ニ處セラレタル者ニ限リ一定ノ條件ヲ附シテ一時其刑ノ執行ヲ猶豫シ依テ以テ犯人ヲ善良ニ遷ラシメンコトヲ期セリ

本章ハ明治三十八年三月三十一日法律第七十號刑ノ執行猶豫ニ關スル件トシテ發布セラレタル單行

法ヲ修正シタルモノナリ

第二十五條　左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

一　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

本條ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ其前ノ經歷如何ニ因リ其刑ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得ル旨ノ規定ニシテ其前ノ經歷ニ關シテハ犯人ガ前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキコト及前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者タルベキ條件ヲ附セリ

罰金ニ付キ執行ノ猶豫ヲ認メザリシハ罰金ヲ言渡サレタル者ハ監獄ニ出入スルコト無キヲ以テ監獄

ニ於テ犯行ノ習性ヲ養成スル虞ナク從テ自暴自棄ノ念ヲ發シ遂ニ罪ヲ累犯スルニ至ル如キ憂少ナキヲ以テナリ

現行法ハ一年以下ノ禁錮ニ處セラレタル者ニ限リ又猶豫期間ヲ二年以上五年以下ノ範圍ト規定セルモ本案ニ於テハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者トシ猶豫期間ハ之ヲ一年以上五年以下トセリ

又現行法ハ十年以内ニ更ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者トアルヲ本案ニ於テハ七年以内トセリ

第二十六條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一　猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑處セラレタルコト發覺シタルニトキ

本條ハ執行猶豫ノ取消ニ關スル規定ニシテ其原因

ハ第一號乃至第三號ニ規定スル所ニシテ此等ノ一ニ該當スベキ事由アルトキハ執行猶豫ハ取消サレ刑ノ執行ヲ受クルモノトス

第二十七條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルヽコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其効力ヲ失フ

本條ハ執行猶豫ノ効力ヲ定メタルモノナリ即チ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者其言渡ヲ取消サルヽコトナクシテ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ其刑ノ言渡ハ永久ニ効力ヲ失フモノトス蓋シ刑ノ執行猶豫ノ効力ニ關スル法制ニアリ一ハ刑ノ言渡ノ効力ヲ消滅セシムルモノニシテ一ハ刑ノ執行ノミヲ免除スルモノナリ現行法ハ後者ヲ採レドモ本案ハ前者ヲ採レリ是レ執行猶豫ノ効力ヲ大ニシ其目的ヲ充分ニ達セントセリ

第五章　假出獄

第二十八條　懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄

ヲ許スコトヲ得（刑五三ノ修正）

現行法ハ獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀アルコトヲ條件トスト雖モ改悛ノ狀アル者ハ畢竟獄則ヲ遵守ス可キヲ以テ改正案ハ單ニ改悛ノ狀アルコトノミヲ要件ト爲シタリ

現行法ハ有期刑ニ付テハ其刑期四分ノ三無期刑ニ付テハ十五年ヲ經過シタル後假出獄ノ恩典ヲ與フルコトヽ爲シタリト雖モ苟モ改悛ノ狀アル囚人ナリトセバ斯ノ如ク長ク在監セシムル必要ナキノミナラズ其在監期間ヲ長クスレバ囚人ヲシテ自暴自棄ニ陷ラシムル弊害アルニ過ギズ故ニ改正案ハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ニ之ヲ短縮シタリ

第二十九條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得（刑五六ノ修正）

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ

處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

現行法ハ假出獄ノ取消ノ原由ヲ更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルコトヽ爲スト雖モ改正案ハ尙ホ他ノ原由ヲ附シタリ但出獄中ノ日數ヲ以テ刑期ニ算入セザルコトハ現行法ト全ク同一ナリ

第三十條　拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

本條ハ新ニ設クタル制度ナリ而シテ拘留ニ付テハ執行猶豫ノ適用ナシト雖モ假出獄ノ恩点ハ之ヲ受クルモノトセリ但シ取消ニ關スル規定ナシト雖モ當然前條ノ規定ニ依ルベキモノトス

第六章　時効

本章ハ現行法第一編第二章第七節ノ規定ニ相當ス

現行法ニ於ケル期滿免除ヲ改メテ時効ト爲シタルハ其意義ニ於テ異ナル所ナシ

第三十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得（刑五八ト同趣旨）

時効ノ効果ハ刑ノ言渡ノ効力ヲ失フニアラズシテ唯執行ノ免除ヲ得ルノミナリ

第三十二條　時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス（刑五九ノ修正）

一　死刑ハ三十年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四　罰金ハ三年

五　拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第一號ノ期間ハ現行法ト全ク同一ナリ第二號ノ期間ハ現行法ヨリ稍短縮シタルモノ第三號ノ期間ハ本案ニ於テ自由刑ノ刑期ノ範圍ヲ擴張シタル結果當然隨伴ス可キモノニシテ其期間ハ適宜之ヲ斟酌シタリト雖モ固ヨリ現行法ニ比シ大差異アルニア

ラズ第四號ニ於テハ罰金ノ時効期間ヲ三年トセリ是レ現行法ノ七年ハ長キニ失スルヲ以テナリ第五號ノ期間中拘留科料ノ時効期間ハ現行法ト全ク同一ナリ沒收ノ時効期間ハ現行法ノ五年ヲ長キニ失スルモノトシ短縮シテ之ヲ一年ト爲シタリ

第三十三條　時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

時効ハ不法ニ刑ノ執行ヲ免レタル者ニ對シテ之ヲ設クルモノナレバ正當ニ其執行ヲ免レタル日數ハ之ヲ時効期間ニ計算スルコトヲ得ズ故ニ刑ノ執行ノ猶豫若クハ其停止又ハ假出獄中ノ日數ハ之ヲ時効ノ期間ニ算入セザル旨ヲ明ニセリ

第三十四條　時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

本條第一項ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ以テ中斷ノ原因トナス然ルニ現行法ハ檢事ヨリ逮捕狀ヲ發スルコトヲ以テ中斷ノ原因ト爲スヲ以テ逮捕狀ノ發布ノミニヨリ時効ハ中斷スレドモ是レ理由ニ乏シキノミナラズ或ハ不公平ノ結果ヲ生ジ或ハ事實上時効期間ノ到來ヲ不能ナラシ

ムル虞アルヲ以テ改正案ハ之ヲ刪除セリ

本條第二項ハ罰金科料及ビ沒收即チ財産ヲ徵收スベキ刑ノ時効ノ中斷方法ヲ規定ス此等ノ刑ハ若シ其全數ヲ分チ數回ニ分納セシメントセバ未ダ之ヲ完納セザル前既ニ時効ノ成就スル虞アルヲ以テ本案ハ此等ノ場合ニハ時効ハ刑ノ執行行爲ニ因リ中斷セラレ從テ時効ハ常ニ最後ノ執行行爲ヨリ其進行ヲ始ムベキモノト規定シタリ

第七章　犯罪ノ不成立及刑ノ減免

本章ノ規定ハ現行法第一編第四章中其第三節ヲ除キ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ不論罪及ビ減輕ノ語ヲ以テ事實上罪ト爲ラザル場合及ビ罪ト爲ルモ其刑ヲ免除シ若クハ法律上之ヲ減輕スル場合ヲ包含セシメタリ然レドモ其意義明瞭ヲ缺キ往往疑義ヲ生ヲタルコトアルヲ以テ改正案ハ之ヲ改メテ罪ト爲ラザル場合ハ之ヲ犯罪ノ不成立トシ刑ヲ免除シ若クハ減輕スル場合ヲ以テ刑ノ減免ト爲シタリ

現行法ハ其第三編第一章第三節ニ於テ殺傷ニ關スル特別ノ宥恕及不論罪ノ規定ヲ設クト雖モ其正當防衛ニ關スルモノハ總則ニ於テ規定ス可キモノト認メ之ヲ本章ニ移シ其他ハ犯罪ノ情狀ニ過ギザルヲ以テ其認定ヲ裁判所ニ一任スルコトヽシ其規定

ヲ刪除シタリ

第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス（刑七六）

現行法第七十六條ハ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル行爲ノ責任ノミヲ規定スト雖モ業務上爲シタル行爲ニ付テハ一言ノ規定ナク之ガ爲メ解釋上疑義ヲ生ジタルコトアルヲ以テ本案ハ一般ニ法令ニ因リ又ハ正當ノ義務ヲ以テ爲シタル行爲ハ罪トナラザルコトヲ明確ニシタリ

第三十六條　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得（刑三一四乃至三一六ノ修正）

本條ハ現行法第三百十四條乃至第三百十六條ヲ合セ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ所謂危急防衛ノ規定ナリ

現行法ヲ修正シタル要旨ヲ擧グレバ左ノ如シ

一現行法ハ危急防衛ノ方法ヲ殺傷ノミニ限リ之ヲ

各論ニ規定シタリト雖モ危急防衛ノ方法ハ單ニ殺傷ニ限ル可キモノニ非ザルヲ以テ本案ハ之ヲ總則ニ移シ廣ク一般ニ通ズル規定ト爲シタリ

二　現行法ハ防衛ノ目的ヲ生命身體財産等ニ制限シタリト雖モ本案ハ尙ホ其他ノ權利ヲモ保護ス可キモノト認メ廣ク自己又ハ他人ノ權利ノ防衛ニ關スル規定ヲ設ケタリ

三　現行法ハ防衛スベキ侵害ノ程度ニ付テハ其規定頗ル不十分ニシテ唯第三百十四條但書ニ於テ不正ノ行爲ニ依リ自ラ招キタル暴行ニ非ザルコトヲ示スノミナルヲ以テ本案ハ更ニ此点ヲ明確ニシ侵害ノ急迫ニシテ不正ナルヲ要スルコトヲ規

定シタリ

本條第一項ハ現行法第三百十四條及ビ第三百十五條ヲ合シタルモノニシテ急迫ニシテ不正ナル侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ爲シタル必要ナル行爲ハ罪ト爲ラザルコトヲ規定シタルモノナリ又第二項ハ現行法第三百十六條ト同一ノ趣旨ニ出タル規定ニシテ前項ノ場合ニ於テ防衛ノ行爲其必要ナル程度ヲ超エタルトキハ既ニ危急防衛ニ非ザルヲ以テ罪トシテ之ヲ罰スト雖モ其情狀ニ斟酌ス可キモノアルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得セシムルモノナリ

第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身体、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ニ義務アル者ニハ之ヲ適用セス（刑七六ノ修正）

本條ハ現行法第七十五條ヲ修正シタルモノニシテ其要旨ヲ擧グレバ左ノ如シ

一現行法第七十五條第一項ハ所謂有形ノ自由ヲ喪失シタル場合ノ規定ニシテ若シ自己ノ身体ガ外力ノ爲メニ全ク强制セラレテ爲シタルトキハ是外力ノ作用ノ結果ニシテ自己ノ行爲ニ非ザルハ明文ヲ俟タザルヲ以テ本案ハ之ヲ刪除シ唯意思ノ上ニ受ケタル外力ノ結果ニ關スル規定ノミヲ設ケタリ

二現行法ハ攻擊セラレタル物ヲ唯自己若クハ親屬ノ身体ニ制限スト雖モ本案ハ自己又ハ他人ノ貴重ナル權利タル生命身体自由及ビ財産ハ本條ノ

場合ニ於テ之ヲ保護ス可キモノト認メ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

三 現行法ハ攻擊セラレタル物ヲ最モ貴重ナル自己又ハ親屬ノ身体ニ限リタルヲ以テ已ムコトヲ得ザルニ出テタル行爲ハ常ニ罪ト爲ラザルコト、爲シタリ是身体ノ價値ハ其已ムコトヲ得ザルニ出テタル行爲ヨリモ重大ナル故ナリ之ニ反シテ本案ハ攻擊セラレタル物ヲ擴張シ生命身体自由ノ外財産ヲモ加ヘタルヲ以テ縱令此等ノ權利ヲ保護スル現實ノ必要ニ出テタル行爲ナリト雖モ其行爲ヨリ生ジタル害其避ケントシタル害ヨリモ大ニシテ畢竟保護セントシタル權利ニ比スレバ却テ重大ナル他人ノ權利ヲ害シタル場合ニ於テハ其行爲ヲ罪ト爲サヾレバ遂ニ其弊ニ堪ヘザルニ至ル可キヲ以テ本案ハ裁判所ヲシテ攻擊セラレタル權利ト已ムコトヲ得ザルニ出デタル行爲ニ依リ侵害セラレタル權利トヲ比較シ或ハ全ク其行爲ヲ罪ト爲サズ或ハ其行爲ヲ罪トシテ之ヲ罰シ又ハ罰スルモ其刑ヲ減輕スルコト、爲シタリ

四 現行法ハ自己ノ權利ヲ保護スベキ危難ノ程度ヲ天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラザル危難ト爲スト雖モ斯カル例示的文字ハ無用ナルヲ以テ之ヲ改メテ現在ノ危難ト爲シ語ヲ簡約ニシテ却

テ其意義ヲ明確ナラシメタリ

五現行法ハ職務上他人ヲ救護スベキ特別ノ義務アル者ニ關スル規定ヲ缺ケル爲メ往往危險ナル場合ヲ生ゼザルニ非ズ是ヲ以テ本案ハ本條第二項ニ於テ新ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

之ヲ要スルニ本案ハ自己又ハ他人ノ生命、身体、自由若クハ財産ニ對シ現在ノ危難ヲ受ケタルトキハ之ヲ避クル爲メ爲シタル眞ニ必要ナル行爲ハ罪ト爲ラザルヲ原則トシ必要ノ程度ヲ超エタル場合ト雖モ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニシテ第二項ノ趣旨ハ職務上特別ノ義務ヲ負担セル者ハ本條ノ適用ヲ受ケザルコトヲ明ニシタルモノナリ

第三十八條　罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但シ法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得（刑七七）

第一項ハ過失殺等ノ如キ法律ニ特別ノ規定アル場

合ノ外ハ罪ヲ犯ス意思ナキ行爲ハ之ヲ罪トセザル旨ヲ明ニセリ

第二項ハ犯人ノ豫想シタル行爲ヨリモ實際犯シタル行爲ガ重キ罪ニ依テ罰セラル可キ場合ニ其豫想シタル行爲丈ニ付キ處罰スル旨ヲ規定セリ

第三項法律ヲ知ラザルコトヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲サヾル趣意ニシテ唯法律ヲ知ラザル爲メ或罪ヲ犯ジタルモ事實憫諒ス可キ者ナキニアラザルヲ以テ但書ヲ設ケ裁判所ヲシテ其情狀ヲ看テ刑ヲ減輕スルコトヲ得セシメタリ此但書ハ本案ノ新ニ設ケタル所ナリ

第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス（刑七八ノ修正）

第一項ハ心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ

第二項ハ本案ニ於テ新ニ設ケタル規定ニシテ心神喪失ノ程度ニ至ラザルモ普通ノ意思ヲ備ヘザル者ニ付キ規定シタルモノニシテ斯カル者ニ對シテハ其罪ヲ減輕ス可キコトヽセリ

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ

其刑ヲ減輕ス（刑八二ノ修正）

現行法ハ瘖啞者ノ行爲ハ常ニ之ヲ罰セズト雖モ瘖啞教育ノ方法備ハリタル今日ニ在ツテハ瘖啞者モ普通ノ智識ヲ得ル便宜アリテ多少犯罪ノ責任ヲ辨ズル者アルベキヲ以テ此等ノ犯罪者ヲ罰スル必要ナシトセズ故ニ本案ハ現行法ヲ改メ瘖啞者ノ心神ノ發達常人ニ近キ者ハ之ヲ罰ストシ唯完全ナル人ト謂フコトヲ得ザルヲ以テ一般ニ其刑ヲ減輕シ全ク責任ヲ辨セザル者ハ之ヲ罰セザルコトヽ爲シタリ

第四十一條　十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス（刑七九ノ修正）

現行法ハ責任年齡ヲ十二歳ト定メ之ニ滿タザル者ノ行爲ハ罪ト爲サズトセリト雖モ近來生理學ノ發達ニ伴ヒ幼者ノ智能ハ此ノ如ク速ニ發育スルモノニ非ザルヲ知ルニ至リ從來ノ立法例ニ於ケル責任年齡ノ低キニ失スルノ非ナルヲ知ルト同時ニ幼年犯罪者ヲ懲治スル設備ヲ整ヘ得ルニ至レルヲ以テ本案ハ舊來ノ立法例ヲ破リ責任年齡ヲ高メ之ヲ十四歳ト爲シタリ蓋シ幼年囚ヲ處罰スルモ其利益甚ダ少ナク却テ累犯者ノ幼年囚ニ多キコトハ今日識者ノ一般ニ認ムル所タルヲ以テ本條ノ修正ハ之ヲ

濟フニ最モ適切ナルモノト謂フベシ

第四十二條　罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得（刑八五及八六ノ修正）

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ（刑八七ト同趣旨）

本條第一項ニ於テハ現行法ガ謀殺、故殺ニ係ル者ヲ除キ自首シタル者ハ必ラズ本刑ニ一等ヲ減ヲ又財產ニ對スル罪ヲ犯シタル者ニハ其損害倍償ノ程度ニ因リ減等ノ度ヲ異ニスルノ規定ヲ設クト雖モ謀殺、故殺ニ係ル者ヲ除外スル理由ナク又自首者ニハ必ラズ本刑ニ一等ヲ減ズル爲メ自首減等ヲ期シテ罪ヲ犯ス者ナキニアラザルノミナラズ損害ヲ賠償スル程度ニ從テ減等ノ度ヲ異ニスル如キハ其規定細微ニ過ギ弊害ヲ生ズル虞アリ是ヲ以テ之ヲ改メ罪ノ種類ヲ問ハズ自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ルコトト爲シ此等ノ弊ヲ一掃シ且自首減輕本來ノ目的ヲ達セントスルモノナリ

第二項ハ現行法ガ財產ニ對スル罪ニ限リ被害者ニ首服スルコトヲ以テ自首ノ效アリト爲スト雖モ本案ハ之ト異ナリ告訴ヲ待テ訴追ス可キ罪ニ限ルコ

トヽ爲シタルハ親告罪ノ性質上頗ル適當ナル規定ナリトス而シテ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者ヲ以テ官ニ自首シタル者ト同一ニ看做スハ其間ニ差別ヲ設クル必要アラザレバナリ

第八章　未遂罪

本章ハ現行法第一編第九章ノ規定ヲ修正シタルモノナリ

第四十三條　犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス（刑一一二ノ修正）

現行法ハ犯罪ノ實行ニ著手シタル後意外ノ障碍若クハ舛錯ニ因ル二個ノ場合ヲ區別シ所謂著手未遂及ビ缺效未遂ト爲スト雖モ本案ハ斯カル區別ヲ無用ノモノナリトシテ之ヲ廢シ又其處分ニ至リテハ現行法ノ如ク必ズ刑ヲ減輕ス可キモノト爲サズシテ一ニ情狀ニ因ルコトヽ爲セリ是未遂罪ノ結果タル危害ハ既遂罪ノ結果タル危害ニ比シ多少輕キモノナキニアラズト雖モ時トシテハ其犯情ノ怨ス可カラザルモノアルヲ以テ其刑ヲ減輕スルト否トハ一ニ之ヲ裁判所ノ判斷ニ任スルコトヲ便宜ト爲シ

タレバナリ然レドモ犯罪ノ實行ニ著手シタル後自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタル者ハ學說上所謂中止犯ニシテ現行法上ハ全ク無罪ナリ社會ニ及ボス害惡少シク且犯情モ亦憫察ス可キ所アルヲ以テ之ヲ罰スル場合ニモ一般ニ減輕スルモノトシ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得セシメ以テ刑ノ適用ニ不權衡ナカラシメ且可成犯罪ヲ已遂ニ至ラシメズ犯人ノ意思ニ依リテ中止セシメンコトヲ期セリ

第四十四條　未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム（刑一一三ノ修正）

現行法ハ總テ重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルコトヽ爲セドモ其重罪中未遂犯ヲ構成スルコト能ハザルモノアルヲ以テ此ノ如キ規定ハ事理ニ反スルノミナラズ又廣キニ失スル弊アリ是ヲ以テ改正案ハ現行法ノ第二項ト同一ノ趣旨ニ依リ未遂罪トシテ罰ス可キ場合ハ特ニ各本條ニ於テ規定スルコトヽ爲シタルナリ

第九章　併合罪

本章ハ現行法第一編第七章數罪俱發ノ規定ヲ修正シタルモノナリ

數罪俱發ノ名ヲ改メ併合罪ト爲シタルハ確定裁判ヲ經ザル數罪ハ必ズシモ俱ニ發覺スルコトナク一

罪既ニ確定裁判ヲ經タル後他ノ一罪ノ發覺スル場合ナキニ非ズ此等ノ場合ニ於テ數罪俱發ノ名稱ハ稍穩當ヲ缺ク嫌アルノミナラズ本案第四十五條ニ規定スル如ク確定裁判前ノ數罪ハ其發覺時期ノ前後如何ヲ問ハズ常ニ併合シテ之ヲ處斷スルヲ以テ寧ロ併合罪ト名ヅクルノ勝レルニハ如カザルナリ然レドモ併合罪ト稱スルモ各罪ヲ合併シテ新ニ一罪ト爲スニ非ズシテ各罪ハ尙ホ獨立シテ存在セシメ唯之ヲ併合シテ所斷スル義ナリ

現行法ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ違警罪ヲ除ク外ハ所謂吸收主義ニ因リ數個ノ犯罪中一ノ重ニ從テ處斷スル主義ヲ採レリ此ヲ以テ一度罪ヲ犯シタル者ハ其裁判確定ニ至ルマデハ之ト同等若クハ輕キ罪ハ幾度之ヲ犯スト雖モ後ノ犯罪ニ對スル刑ハ常ニ第一ノ犯罪ニ對スル刑ニ吸收セラレ後ノ犯罪ハ全ク處罰ヲ受クルコトナキ結果ヲ生ズ加之一罪ヲ犯シタル者ト數罪ヲ犯シタル者トハ常ニ同一ノ刑ヲ以テ處斷セラルルニ至リ頗ル不當ノ結果ヲ來タスヲ以テ改正案ハ此主義ヲ排斥シ所謂併科主義ヲ採リ一罪毎ニ各其刑ヲ科スルコトヲ原則ト爲シタリ

第四十五條　確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタ

ル罪トヲ併合罪トス

本條ハ併合罪ノ場合ヲ示シタルモノニシテ確定裁判ヲ經ザル數罪ハ併合罪トシ若シ數罪中ノ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其確定裁判前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トスルコトヲ規定シタルモノナリ

第四十六條　併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處スヘキトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

前ニ述ベタルガ如ク改正案ハ併科主義ヲ採レドモ若シ一罪ニ付キ死刑ヲ科ス可キ場合ニハ他ノ体刑ヲ科ス可キ必要ナキガ故ニ沒收ヲ除ク外ハ他ノ刑ヲ科セザルコトヲ規定セリ若シ又一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキハ亦同一ノ理由ニヨリ罰金、科料及ヒ沒收ノ外ハ他ノ刑ヲ科セザルコトヲ規定シタリ是死刑ニ處セラレタルモノト雖モ沒收ハ被告人ノ身體ニ關係ナクシテ之ヲ執行シ得ベシ又無期刑ニ處セラレタルモノト雖モ罰金、科料

及ビ沒收ハ共ニ被告人ノ財産ヨリ徵收スルモノナレバ是亦併科スルニ差支ナケレバナリ

第四十七條　併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ科ス可キ場合ニシテ前述ノ如ク制限併科ノ主義ヲ採リタルモノナリ其制限ノ程度ハ併合罪中最モ重キ罪ニ對スル刑ノ長期ニ其半ヲ加ヘタルモノヲ以テ併合罪ニ對スル刑ノ長期ト爲スヲ原則トス然レドモ併合罪中一ノ最モ重キ罪ニ對スル刑ト他ノ罪ノ刑ヲ加フルトキハ其重キ刑ニ之ガ半ヲ加ヘタルモノヨリ長キトキハ但書ノ規定ニヨリ併合罪ノ刑期ハ其各罪ノ長期ヲ加ヘタルモノニ超過スルコトヲ得ザルモノトス是此ノ如ク規定セザレバ却テ制限併科ノ趣旨ニ反シ各刑ヲ併科シタルヨリ重キ刑ヲ科スルニ至ル可ケレバナリ

第四十八條　罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス

但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

改正案ハ刑ノ性質上許ス可キモノハ成ル可ク之ヲ併科スル主義ヲ採リタルヲ以テ罰金ノ如キハ他ノ刑ト併科スルコトヲ原則トセリ但本案第四十六條第一項ノ如ク死刑ヲ科ス可キ場合ノミハ之ヲ例外ト爲シタリ本條第二項ハ二個以上ノ罰金ヲ科ス可キトキハ其罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷スルコトヲ規定シタルモノナリ

第四十九條　併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

本條ハ併合罪ニ關スル沒收ノ規定トス

第一項ハ併合罪中其重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ其沒收ヲ科スルコトヲ得ル旨ヲ規定セルモノトス

第二項ハ二箇以上ノ沒收アル場合ニシテ沒收ハ特ニ或ル物ヲ沒收スル必要アルモノナルヲ以テ常ニ之ヲ併科スルコトヲ規定シタルモノナリ

第五十條　併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

本條ハ併合罪中或罪ハ既ニ裁判ヲ經或罪ハ未タ裁判ヲ經ザル場合ニ於テハ未タ裁判ヲ經ザル罪ノ刑ヲ定ムルコトヲ規定シタルモノニシテ其執行方法ハ次條ニ規定セリ

第五十一條　併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタル場合ノ規定ニシテ第四十六條第四十七條ト同趣旨ナリ即チ各裁判ニ對シ其刑ヲ併セ執行スルコトヲ原則トシ場合ニ依リ刑ノ性質上併セ執行スルコトヲ得

ザルコトアリ即チ一罪死刑ニ該ルトキハ沒收以外ノ刑ハ之ヲ執行セズ又無期刑ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ビ沒收ノ外他ノ刑ヲ執行セズ又有期刑ヲ併セテ執行ス可キ場合ニハ其刑期ノ合計ガ其最モ重キ罪ノ刑期ニ其半ヲ加ヘタルモノニ超過ス可カラザルコトヲ規定ス是皆執行官ニ於テ遵據ス可キ標準ヲ示スモノナリ

第五十二條　併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

本條ハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者ガ併合罪中ノ或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ノ規定ナリ大赦ハ其効力トシテ罪ニ付テノ裁判ノ効力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ大赦ヲ受ケザル罪ニ付キ更ニ獨立ニ一ノ刑ヲ科スル必要アリ故ニ大赦ヲ受ケザル罪ニ付キ別ニ刑ヲ科スルコトト爲シ以テ現行法ノ不備ヲ補ヘリ

第五十三條　拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

本條ハ拘留又ハ科料ト他ノ刑ト併發シタル場合ニ

總テ之ヲ併科スルコトヲ規定シタリ現行法ハ違警罪ト違警罪トガ併發シタル場合ニハ其刑ハ之ヲ併科シ即チ併科主義ヲ採リ重罪、輕罪ト俱發シタルトキハ一ノ重キニ從フト規定シテ吸收主義ヲ採レリ改正案ハ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ併發ノ場合ニ現行法ノ違警罪併發ノ場合ト同一主義ヲ採リ尙ホ拘留又ハ科料ニ處ス可キ罪重罪輕罪ト併發シタル場合ニモ現行法ノ吸收主義ヲ改メ併科主義ヲ採リタルモノナリ又本條但書ハ第四十六條ノ規定ヨリ生ズル當然ノ結果ニシテ死刑ト併發シタル場合ニハ死刑ノミヲ科スモノトセリ

第五十四條　一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

本條ハ學說ニ所謂想像上ノ數罪俱發ト稱スル場合及ビ相牽連スル犯罪ニ關スル規定ナリ現行法ハ此規定ヲ缺ク爲メニ解釋上頗ル疑義ヲ生ズルコトアルヲ以テ改正案ニ於テハ新ニ本條ヲ設ケテ其趣旨

ヲ明ニセリ本條ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルヽ場合及ビ或罪ガ他ノ罪ノ手段若クハ結果ニ過ギザル場合ニ在テハ其罪名中最モ重キ刑ヲ科スルコトヽシ特ニ吸收主義ヲ採リタルモノナリ

第五十五條　連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

本條ハ所謂連續犯ト稱スル場合ノ規定ニシテ亦現行法ニ規定ナキ爲メ往往爭議ヲ生ジタルモノナリ本條ハ連續シタル數箇ノ行爲ガ同一ノ罪名ニ觸ルルモノハ之ヲ數罪トシテ處斷スル必要ナシトシ是ヲ一罪トシテ處斷スルコトヲ明ニシ從來疑義ヲ避ケタルモノトス

第十章　累犯

本章ハ現行法第一編第五章ノ規定ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ再犯及ビ初犯間ノ日數ニ付キ重罪輕罪ニ關シテ何等ノ制限ナク初犯後數十年ヲ經タル後ト雖モ更ニ犯罪アレバ之ヲ再犯ト爲セリ是犯人ニ對シ酷ニ失スルノミナラズ再犯加重ヲ爲ス所以ノ趣旨ニ添ハザルモノトス特ニ再犯ハ初犯後久シカラザル期限内ニ於テ最モ多ク發生スルヲ以テ此点ニ對シテハ一ノ制限ヲ設ケ初犯後或年限内ニ

非ザレバ再犯例ヲ適用セザルコトヽ爲セリ尙ホ本案ハ累犯ナル文字ヲ用ヒ再犯以上ノ犯罪ヲモ包含スルコトヲ明ニセリ

第五十六條　懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年內ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタル者ト看做ス

本條ハ懲役ニ處セラレタル者執行ヲ終リ又ハ其免除ヲ受ケタル日ヨリ五年內ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ限リ再犯例ヲ適用ス可キコト

ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ニ於テハ初犯ハ懲役ニ限ルト雖モ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得タル者若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除ヲ得タル者ニ付キテハ尚ホ一層之ガ再犯ニ付キ加重ス可キ必要アリ此ヲ以テ此等ノ者ガ本條第一項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯セバ之ニ再犯例ヲ適用セザル可カラズ是本條第二項アル所以ナリ

本條第三項ハ改正案ニ於テ併合罪ニ付キ併科主義ヲ採用シタル結果再犯例ノ適用上必要ノ規定ナリ

第五十七條　再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

現行法ハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加フト定メタリ然レドモ其結果ハ重罪ニ付テハ多クモ三年ヲ超ユルコトナク輕罪、違警罪ニ付テハ刑期又ハ罰金額ノ四分一ヲ加重スルニ過ギズ加之三犯以上ノ場合ト雖モ之ト異ナルコトナキ爲メ一般ニ加重ノ分量輕キニ失シ現時累犯者ノ增加スルコト夥シクシテ之ヲ防遏スルコトヲ得ズ是現行法ノ改正ヲ要スル一大要点ナリ故ニ改正案ハ加重ノ分量ヲ增加シ其罪ニ付キ定メタル刑期ノ二倍以下ヲ以テ再犯ノ

刑ト定メタリ

第五十八條　裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

犯人ハ再犯加重ヲ免レント計リ前ノ犯罪ヲ隱蔽スルヲ以テ之ヲ發見スルコト容易ナラズ改正案ニ於テハ加重ノ分量更ニ大ニナリタレバ勢ヒ前ノ犯罪

ヲ隱蔽スル者ノ增加スベキナリ然ルニ現行法ニ於テハ裁判ノ當時ニ於テ再犯者タルコト發見セラレザルトキハ縱令其後ニ至リ發覺スルコトアルモ其刑期ハ之ヲ加重シ得ベカラザルヲ以テ犯人ハ其裁判ノ時ニ當リテ可及的其再犯者タルコトヲ隱蔽ス可シ是ヲ以テ改正案ハ一旦裁判ヲ受ケタル後ト雖モ再犯者タルコトヲ發覺スルニ至レバ更ニ其刑ヲ加重スルコトヲ規定シタルモノナリ

第五十九條　三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ（刑九八ト同趣旨）

三犯以上ト雖モ特別ノ加重例ヲ設ケズシテ再犯ノ

例ニ依ラシメタリ

第十一章　共犯

本章ハ現行法第一編第八章數人共犯ノ規定ヲ補修シタルモノニシテ主トシテ現行法ノ不備ヲ補ヒタルニ止リ趣旨ニ於テ變更ヲ加ヘタル所少ナシ

第六十條　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス（刑一〇四）

本條ハ現行法第百四條ノ規定ノ文字ヲ修正シタルニ止マル現行法ハ現ニナル文字ヲ以テ實行正犯ノ意義ヲ示シタレドモ其意義多少狹キニ失スル嫌アルヲ以テ之ヲ修正シ共同シテナル文字ヲ用ヒタリ現行法ハ又各自ニ其刑ヲ科スト規定スレドモ既ニ各々正犯タル可キコト規定セラレタル上ハ各自正犯トシテ其刑ヲ科セラルヽコトハ明文ヲ俟タザルヲ以テ改正案ハ此句ヲ刪除セリ

第六十一條　人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス（刑一〇五ト同趣旨）

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

本條第一項ハ所謂實行正犯ヲ教唆シタル場合ノ規定トス現行法ノ文字稍不明ナル点即チ又教唆者ヲ正犯ト爲スト在ルヲ改正案ハ正犯ニ準スト改メタ

リ是教唆者ハ實行正犯ニ非ラザルモ其責任ニ於テハ正犯ト同一ナルコトヲ明ニスルモノナリ

第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ實行正犯ノミナラズ教唆者ヲ教唆シタル者モ亦之ヲ罰スルモノナリ現行法ニ於テ此規定ナキ爲メ實際上往往不良ノ徒ヲシテ其刑ヲ免レシメタルコトナキニアラズ改正案ハ此理由ニ因リ教唆者ヲ教唆シ教唆罪ヲ實行セシメタル者モ亦實行正犯ヲ教唆シタルモノト同ジク準正犯ト爲スコトヲ規定シタルナリ

第六十二條　正犯ヲ幇助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス（刑一〇九ノ修正）

本條ハ現行法第百九條ト同一ノ規定ナリ現行法ハ幇助ノ方法ヲ列擧シタルモ是唯例示ニ過ギズシテ實益ナシ是ヲ以テ改正案ハ別段其方法ヲ示サズ苟モ正犯ヲ幇助シタル者ハ總テ之ヲ從犯ト爲スコトトセリ然レドモ學説ニ所謂事後從犯ノ如キ者ヲモ包含セシムル趣旨ニ非ラズシテ現行法ト同ジク事前ノ從犯ノミニ限ルモノトス

第二項ハ從犯ノ教唆者ヲ準從犯ト爲ス規定ナリ改正案ハ既ニ教唆者ノ教唆ヲ準正犯ト爲ス以上ハ其

權衡上從犯ヲ教唆シテ幇助ヲ實行セシメタル者モ亦之ヲ準從犯ト爲ス必要アルガ故ニ之ヲ設ケタリ

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照ラシテ減輕ス

本條ハ現行法第百九條ト同ジク從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ヨリ之ヲ減輕スルコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ從犯ハ正犯ト異ナリ犯罪ノ成立ヲ幇助シタルニ止マリ其行爲正犯ヨリ輕キモノナレバナリ

第六十四條　拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セズ

本條ハ改正案ニ於テ拘留又ハ科料ニ處ス可キ罪ハ罪質輕微ナルヲ以テ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ罪質更ニ輕微ニシテ一般ニ之ヲ處罰スルノ必要ナシト爲シ其特ニ必要アルモノニ限リ各本條ノ規定ニ該ル趣旨ニ出デタルモノナリ

第六十五條　犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタルトキハ其身分ナキ者トハ雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身

分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

本條第一項ハ新ニ設ケタル規定ナリ現行法ニ於テハ此場合ニ關スル規定ナキ爲メ學說二派ニ分レ一ハ之ヲ以テ共犯ニ非ズト爲シ一ツハ之ヲ共犯ト爲セリ改正案ハ第二ノ主義ヲ採リ身分ナキ者ガ身分アル者ト共ニ身分ニ依リ構成ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ共犯ト爲スコトトセリ

第二項ハ現行法第百六條及ビ第百十條ト同一ノ規定ニシテ現行法ニハ減輕ノ場合ニ關スル規定不備ナルヲ以テ之ヲ補充シタルソミナリ

第十二章　酌量減輕

本章ハ現行法第一編第四章第三節ノ規定ト其趣旨ヲ同フス改正案ハ現行法ノ刑ノ範圍狹キニ失シ實際上刑ノ權衡ヲ失スル弊アルヲ避クル爲メ各本條ニ於テ各罪ニ對スル刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ因リ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ定メシムルコトト爲セリ然レドモ或場合ニ依リテハ尙ホ刑重キニ失スルナシトセズ是ヲ以テ尙ホ酌量減輕制ヲ存シ適當ノ刑ヲ科セシメンコトヲ期セリ

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

現行法第八十九條第一項ト其趣旨ヲ同ジフス

第六十七條　法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

本條ハ現行法第八十九條第二項ト其趣旨ヲ同ジフス

第十三章　加減例

本章ハ現行法第一編第三章加減例及ビ第六章加減順序ノ二章ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第六十八條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一　死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四　罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五　拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分

ノ一ヲ減ス

六科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

本條ハ所謂法律上ノ減輕ノ場合ニ該當スルモノナリ改正案ハ刑名ヲ減少シ其範圍ヲ廣大ニシタル結果トシテ減輕ノ分量ヲ定ムル方法モ亦全ク現行法ト異ナラザルヲ得ズ現行法ハ第六十六條以下ニ於テ之ガ爲メ詳細ナル規定ヲ設クト雖モ本條ハ全ク之ヲ廢シ新ナル規定ヲ設ケタリ但本條ニ於テハ唯法律上ノ減輕ノ場合ニ關シテノミ之ヲ規定シ法律上ノ加重ノ場合ニ關スル規定ヲ設ケザルハ其場合

タル再犯若クハ併合罪ノ章ニ於テ既ニ之ヲ定メタルヲ以テナリ

又現行法ハ刑ノ種類ヲ細別シ多クノ階級ヲ設ケ加減ノ原因數個アル場合ニ於テハ一個毎ニ之ヲ計算シテ加減スルコトヽ爲スト雖モ改正案ハ前ニ擧ゲタル如ク刑ノ範圍極テ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スル結果ハ又頗ル刑ヲ輕クスルコトヽ爲ル可シ是ヲ以テ縱令數個ノ減輕ノ原因アルトキト雖モ之ヲ合シテ一ト爲シ一度刑ヲ減輕スルニ止ム是修正ヨリ生ズル必然ノ規定ニシテ現行法ニ比シ敢テ減輕ノ利益ヲ縮少スルニ非ズ酌量減輕ハ第七十九條ニ規定スル如ク他ノ原因ト分離シ別ニ減輕スルモノナル

ヲ以テ其減輕ハ第八十三條ニ之ヲ定ムト雖モ減輕ノ方法ハ全然法律上ノ減輕ニ同ジ本條第一號乃至第六號ハ實際ニ於テ適宜ノ範圍ニ減輕ヲ施ス標準ヲ示スモノナリ

第六十九條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

改正案ハ各本條ニ於テ懲役又ハ禁錮ニ處ス若クハ懲役又ハ罰金ニ處ス等トアリテ二個以上ノ刑名ヲ設ケ裁判所ヲシテ其一ヲ擇バシムルモノアリ此場合ニ於テ法律上ノ減輕ヲ施ス方法ヲ規定シタルモノナリ

第七十條　懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

法律上減輕ノ方法ハ第六十八條ニ之ヲ定メタリ同條ニ依レハ刑期金額ノ二分ノ一ヲ減ズル場合アルヲ以テ或場合ニ於テハ減輕ノ結果一日未滿ノ時間又ハ一錢未滿ノ金額ヲ剩スコトナキニアラズ此場

合ニ於テハ此剰時間又ハ剰金額ノ刑ヲ科スレバ實際上便宜ナラザルノミナラズ何等ノ必要ヲ見ザルヲ以テ之ヲ除棄スルヲ妥當ナリトス是本條ノ規定ヲ見ル所以ナリ

第七十一條　酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及前條ノ例ニ依ル

本條ニ於テハ現行法第九十條ヲ廢棄シ更ニ減輕ノ程度ヲ定ム此制度ハ第六十七條ニ掲ゲタル如ク法律上ノ減輕ニ拘ラズ更ニ酌量シテ減輕スルモノニシテ法律上減輕シタル刑ノ範圍ガ尙ホ犯罪ニ比シ重キニ失スル場合ニ適用スル趣旨ナリ此等ノ場合ニ於テハ其刑又ハ其刑ニ法律上ノ減輕ヲ爲シタル刑ヨリ第六十八條及前條ノ例ニ從ヒテ更ニ其減輕ヲ爲ス可キモノトス

第七十二條　同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一　再犯加重
二　法律上ノ減輕
三　併合罪ノ加重
四　酌量減輕

本條ハ現行法ニ所謂加減順序ノ規定ニ該當スルモノニシテ前數條ニ於テ現行法ヲ改正シタルト同一

ノ理由ニ因リ本條ニ於テモ新ニ其順序ニ付キ規定ヲ設ケタリ而シテ此順序ヲ定ムルニ付キ再犯加重ヲ先ニシタルハ若シ犯罪中再犯ノモノアレバ其刑期ハ本刑ノ二倍以下トナルコトヲ定メタルヲ以テ第一ニ置ク必要アレバナリ次ニ法律上ノ減輕ヲ置キタルハ此減輕ハ亦各場合ニ於テ各犯罪ニ付キ減輕ス可ク併合罪ヲ第三トナシタルハ前二ツノ加減例ニ依リ各罪ニ付キ一旦刑ヲ定メ然ル後併合罪ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル必要アルニ因ル最後ニ酌量減輕ヲ置キタルハ其裁判所ノ任意ニ出デ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ニ先ズ可キ性質ノモノニアラザレバナリ

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

本編第一章ハ皇室ニ對スル罪ヲ規定シタル者ニシテ

(一)天皇太皇太后皇太后皇后皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル罪

(二)天皇太皇太后皇太后皇太子皇太孫神宮皇陵ニ對シ不敬ノ罪

(三)天皇太皇太后皇太后皇后皇太子及ビ皇太孫以外ノ皇族ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル罪

(四)天皇太皇太后皇太后皇后皇太子及皇太孫以外ノ皇族ニ對シ不敬ノ罪ヲ規定シタル者ニシテ如何ナ

ル場合カ危害ナルヤ又ハ不敬ノ如何ナル者ナルヤハ各本條ニ付テ之ガ説明ヲ爲ス可シ

第七十三條　天皇太皇太后皇太后皇后皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス（刑一一六）

本條ハ天皇太皇太后皇太后皇后皇太子皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ危害ヲ加ヘントシタルモノニ對スル罪ヲ規定シタル者ナリ而シテ本條ノ犯罪成立要件ハ（一）天皇太皇太后皇太后皇后皇太子及ビ皇太孫ニ對スルコト（二）危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルモノナルコト（三）故意アルコト

（第一）天皇トハ在位ノ　今上陛下ヲ奉稱シ太皇太后トハ前々代ノ天皇ノ皇后タリシ御方皇太后トハ前代ノ天皇ノ皇后タリシ御方皇后トハ天皇ノ配偶者タル御方皇太子ハ皇室典範第十五條ノ規定ニ因リ皇位ヲ承繼シ給フ可キ皇族皇太孫ハ皇室典範第十五條第十六條ノ規定ニ因リ儲嗣トシテ定メラレタル皇男孫ヲ奉稱スルモノナリ

（第二）危害トハ生命身体名譽自由貞操ニ對シ害ヲ加フルコトヲ云フモノニシテ財産ニ對シテ害ヲ加フル場合ハ危害ノ内ニ包含セラレズ即チ第

一條件ノ天皇以下ノ御方ニ對シ身体生命自由名譽貞操ニ對シテ害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトヲ要ス害ヲ加ヘタルトハ實行シタル場合ヲ總稱シ害ヲ加ヘントシタルトハ未遂罪豫備陰謀ノ場合ヲ云フモノナリ

（第三）（第二）ノ害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル行爲ハ故意アルコトヲ要ス若シ故意アルニアラズンバ本條ノ犯罪ハ構成スルモノニアラズ

右ノ如ク本案ハ天皇其他本條規定ノ御方ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル場合ニ於テハ其犯人ニ對シテ死刑ニ處ス可キモノナルコトヲ規定シタルモノナリ

第七十四條　天皇太皇太后皇太后皇后皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（刑一一七）

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタルモノ亦タ同シ

本條ハ天皇太皇太后皇太后皇后皇太子皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ヲ罰スル明文ナリ天皇太皇太后皇太后皇后皇太子皇太孫ニ對スル説明ハ前條ニ於テ之ヲ説明シタル故ニ再説セズ

神宮トハ伊勢ノ大神廟宮ヲ云ヒ皇陵トハ御歴代ノ御墳墓ヲ云フ不敬ノ行爲トハ皇室ニ對スル尊敬ヲ汚瀆シ又ハ汚瀆ス可キ行爲ヲ總稱ス如何ナル場合ガ不敬ノ行爲タルヤハ事實裁判官ノ認定ニ任セザル可カラザルモ通常人ニ對シテ罪ト成リ得ル罵詈嘲弄誹毀ハ勿論其他苟クモ皇室ノ尊敬ヲ傷ク可キ言語形容一切ヲ包含スルモノニシテ其行爲ノ積極タルト消極タルトヲ問ハザルナリ

神宮皇陵ニ對シテ之ヲ汚穢シ之ヲ毀損シ又ハ發掘スルハ勿論其他尊敬ヲ害ス可キ總テノ行爲ヲ云フ然レドモ本條犯罪成立ニハ故意アルコトヲ要ス若シ過失ナレバ假令不敬ニ渉ル行爲アルモ本條ノ犯罪ハ構成セザル者ナリ不敬罪ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七十五條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス（刑一一八）

本條第七十三條ノ規定シタル以外ノ皇族ニ對スル危害罪ヲ規定セリ危害ノ如何ナル者ナルヤハ七十三條ニ於テ説明シタル故ニ再説セズ七十三條以外ノ皇族トハ皇太子妃皇太孫妃親王親王妃内親王妃女王ヲ云フモノナリ七十三條ニ於テハ危害ヲ加ヘタル者ハ勿論危害ヲ加ヘントシタル場合モ共ニ死

刑ニ處セラル可キモノナレドモ本條ハ危害ヲ加ヘタル場合ハ即チ實行ノ場合ニ限リ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處スト爲シタルモノハ皇族ノ身分ニ對シテ差異アル爲メ斯ノ如キ規定ヲ設ケタルモノナリ

第七十六條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス（刑一一九）

本條ハ七十四條ニ記載シタル皇族以外ノ皇族ニ對スル不敬ノ罪ヲ規定シタルモノナリ不敬ノ行爲トハ第七十四條ニ於テ説明シタル如ク罵詈嘲笑誹毀等ノ如キ總テ皇族ニ對スル尊榮ヲ傷ク可キ行爲ヲ總稱スルモノナリ本條ヲ犯シタルモノハ一年以上四年以下ノ懲役ニ處セラル

第二章　内乱ニ關スル罪

内乱罪トハ朝憲紊乱ノ目的ヲ以テ暴動ヲ起シタルモノヲ云フ即チ政府ノ顚覆邦土ノ僭竊ノ如シ而シテ七十七條乃至八十條ヲ以テ内乱ニ關スル罪ヲ規定シタリ

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊乱スルコトヲ目的トシテ

暴動ヲ爲シタル者ハ內亂罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

(一)首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

(二)謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタルモノハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

(三)附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタルモノハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但シ前項第三ニ記載シタル者ハ此ノ限リニアラズ(刑一二一)

本條ハ內亂罪ノ規定ナリ本條成立要件ハ(一)朝憲紊亂スルコトノ目的アルコト(二)暴動ヲ起シタルコトトノ此ノ二要素ヲ具備スル時ハ內亂罪ヲ構成スルモノトス

(第一)要素朝憲紊亂トハ國家統治權ノ主体及ビ統治權活動ノ基本タル憲法ノ內容ヲ變更シテ統治ノ大權ヲ侵犯スル行爲ヲ云フ政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊スルガ如キハ所謂朝憲紊亂ノ一例ニ過ギザルナリ政府ヲ顚覆ストハ政体ノ變

更皇統ノ廢換ヲ行ハントスル如キ行爲ヲ云フモノニシテ立憲君主政体ヲ變更シテ共和政治ニ爲スガ如キ現在ノ皇統ヲ廢シ他ノ人ヲ以テ天皇ト爲サントスルガ如キ事ヲ云フ國土ヲ僭縮スルトハ日本帝國所屬ノ一地方ヲ横領シ國家ノ主權ヲ排斥スル如キ行爲ヲ云フ

(第二)要素朝憲紊乱ノ目的ヲ以テ暴動ヲ起シタル事ヲ云フ暴動トハ多數共同シテ不法ノ腕力又ハ脅迫ヲ爲スコトヲ云フ然レドモ暴動ヲ爲スニ付テハ必ラズヤ朝憲紊亂ヲ目的トシテ起ツニアラズンバ本條ノ犯罪ハ構成セズ若シ暴動ガ朝憲紊亂ノ目的ナク單ニ騒擾スルニ止マルトキハ第八章ノ騒擾ノ罪ヲ構成スルニ過ギズ故ニ此ノ暴動ガ内亂ノ爲メナルヤ將タ騒擾ノ爲メナルヤハ犯罪ノ遠因ニ付テ之ヲ探究シ依テ之ガ區別ヲ爲スベキモノナリ内亂罪ノ特性トシテ犯罪ノ主体ハ必ズ多數人團結シテ内亂ヲ起スモノナル故ニ其暴動中ニハ從テ首魁アリ參謀アリ附和隨行シタルモノアリ本條第一項ヨリ第三項ニ於テ是等ノ地位身分ニ因テ各其罪ニ對スル刑ノ規定ヲナセリ

(一)首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス首魁トハ主謀者ニシテ支配統禦スル頭領ヲ云フ頭領ハ一人アリ又數人アルコトアリ

(二)謀議ニ參與スルトハ戰鬪ノ謀畧ヲ爲シ以テ一戰爭ノ籌策ヲ立ツルヲ云フモノナリ群衆ノ指揮ヲ爲シタルモノトハ一聯一隊ノ長タル者ヲ云フ諸般ノ職務ニ從事シタル者トハ指揮官ノ下ニ於テ暴動民ノ募集又ハ暴動ノ爲メニ奔走盡力シタルモノヲ云フ

(三)附和隨行シタルモノトハ單ニ煽動セラレテ暴動ニ附隨シタル者ヲ云フ而シテ首魁ハ死刑又ハ無期刑ニ處セラレ謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處セラルモノニシテ仮其犯人ノ地位ニ依リ之ガ規定ヲ異ニシタルモノナリ

第二項ハ內亂罪ニ干與シタルモノヽ未遂犯ハ之ヲ罰スヽ可キ旨ヲ規定シタリ但シ附和隨行ノ未遂ノ場合ハ之ヲ除外例トナシタリ

第七十八條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス(刑一二五)

本條ハ內亂ノ豫備陰謀ノ罪ヲ罰スル規定ナリ內亂ノ豫備トハ內亂ヲ起ス目的ヲ以テ內亂ニ關スル諸般ノ準備的行爲ヲナスモノヲ云フ例ヘバ內亂ヲ起スガ爲メニ兵隊ヲ募集シ或ハ兵器ヲ準備スルガ如キヲ云フ內亂ノ陰謀トハ二人以上ノ人ガ政府ヲ顚

覆シ又ハ邦土ヲ僭窃シ其他朝憲ヲ紊乱セントスルコトヲ密議スルコトヲ云フ本條ヲ犯シタルモノハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處セラル

第七十九條　兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタルモノハ七年以下ノ禁錮ニ處ス（刑一二七）

本條ハ内乱ノ幇助ニ干スル罪ヲ罰スル規定ナリ内乱幇助トハ其行爲種々アレドモ内乱ヲ起スモノニ對シテ兵器若クハ金穀ヲ資給シ其他戰鬪ニ關スル軍備品ヲ交付スルガ如キ内乱ノ情ヲ知テ其罪ヲ犯スコトヲ幇助シテ容易ナラシメタル場合ニ適要ス

可キ刑罰ニシテ本條ヲ犯シタルモノハ七年以下ノ禁錮ニ處セラル

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖トモ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタルモノハ其刑ヲ免除ス（刑一二六）

本條ハ内乱ノ自首ニ干スル規定ナリ本條ハ内乱ノ豫備又ハ陰謀及ビ幇助ノ罪ヲ犯スト雖ドモ未タ暴動ニ至ラザル前ニ自首シタルトキハ刑ヲ免除スルコトヲ規定シタル者ナリ暴動ニ至ラザル前トハ未タ其事ヲ行ハザル以前ト云フ意義ニシテ内乱ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スモ暴動ト稱スルニ至ラザル前又

ハ幇助ノ目的ヲ以テ兵器金穀ヲ資給スルモ未タ旗上ゲヲセザル以前ニ自首シタルトキハ其刑ヲ全免スルコトヽ爲セリ之レ畢竟自首ノ効果ヲ大ナラシメテ内乱ヲ防止セントノ爲メニ外ナラズ

第三章　外患ニ干スル罪

外患ニ干スル罪トハ外國ニ與ミシテ日本帝國ニ對シ戰端ヲ開キ若クハ抗敵シ其ノ他帝國ノ要塞陣營軍隊艦船其他ノ軍用物ヲ敵國ニ交付シ又ハ敵國ノ爲メニ是等ノ軍用ニ供スル物ヲ損壞シタルモノニ適用ス可キ規定ニシテ日本帝國内ニ在スルモノハ獨リ日本臣民タルノミナラズ例令外國人ト雖モ本章ノ適用ヲ受クルモノトス外患ニ干スル總テノ規定ハ第八十一條乃至第八十九條ニ於テ之ガ規定ヲ設ケタリ

第八十一條　外國ト通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與ミシテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス（刑一二九）

本條ハ外患ニ干スル罪ヲ規定シタル者ニシテ外國トハ日本帝國以外ノ國ヲ云フ其國ト通謀シ互ニ氣脈ヲ通ジ日本帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ既ニ日本帝國ト戰爭ヲ開始シタル對手國ニ投ジ對手國ノ軍艦ニ乘リ込ミ或ハ軍籍ニ入リ以テ日本帝國ニ

對シテ敵對ヲ爲スガ如キヲ云フ本條ヲ犯シタル者ハ死刑ニ處セラル

第八十二條　要塞陣營軍隊艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス兵器彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス（刑一三〇）

本條ハ軍用ニ供スルモノヲ敵國ニ交付シタル場合ニ對スル罪ノ規定ナリ

本條ノ敵國トハ既ニ我帝國トノ間ニ交戰ヲ開始シタル帝國以外ノ外國ヲ云フモノニシテ其敵國ニ對シ要塞陣營軍隊其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ交付スルトキハ死刑ニ處スコトヲ規定セリ

第二項兵器彈藥ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處スベキコトヲ規定シタルモノニシテ本項ノ交付スベキ物ハ總テ軍用ニ供スベキ物タラザル可カラザルハ勿論ナリ兵器彈藥以外ノ軍用器トハ電線糧食ノ如キ物ヲ云フ

第八十三條　敵國ヲ利スル爲メ要塞陣營艦船兵器彈藥汽車電車鐵道電線其他軍用ニ

供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ敵國ヲ利スル爲メニ軍事上必要ナル場所又ハ物ヲ破壞シタル場合ニ對スル規定ナリ要塞陣營艦船兵器彈藥等ハ軍用ニ供スル場所又ハ物ノ例示ニ過ギズ而シテ是等ノ物ハ戰爭ニ對シテハ必要缺ク可カラザルモノナリ然ルニ敵國ヲ利益スル爲メニ軍用ニ供スル總テノ場所又ハ物ヲ破損シ若クハ之ヲシテ使用スルコト能ハザルニ至ラシメタル如キ行爲ヲナスモノハ本條ニ因リ死刑又ハ無期懲役ニ處セラルルモノトス

第八十四條　帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ日本帝國ノ軍用ニ供セザル兵器彈藥等ヲ敵國ニ交付シタル者ニ對スル罪ヲ規定シタルモノナリ兵器彈藥ガ帝國ノ軍用ニ供セル物ナルトキハ第八十二條第二項ノ規定ニ因テ之レガ制裁ヲ受ク可キコトハ勿論ナレドモ本條ノ兵器彈藥ハ即チ帝國

ノ軍用ニ供セザル兵器彈藥ヲ云フモノナリ然レドモ敵國ニ交付スベキモノハ兵器彈藥ノ如ク其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供セラル可キ物件タルコトハ勿論ナリ之等ノ物ヲ敵國ニ交付スルニ於テハ其物ヲ使用シ帝國ニ對シ敵對行爲ヲナス材料トナル可キモノナレバ本條ニ於テ豫メ斯クノ如キ者ニ對シテハ制裁ヲ加フ可キコトヲ規定シタルニ過ギズ故ニ交付物ガ直接戰鬪ニ供セラルヽモノニアラザルトキ本條ノ罪ハ構成スルモノニアラズ直接戰鬪ノ用ニ供セラルモノナルヤ否ヤ裁判官ノ認定ニ任スル外ナシ本條ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處セラル

第八十五條　敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ（刑一三一）

本條ハ間諜罪及ビ軍機ノ漏泄ニ干スル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ間諜ニ干スル場合ニシテ間諜トハ犯人自ラ戰鬪行爲ニ加ハラズ專ラ本國ノ軍情ヲ探リ之ヲ敵國ニ通知シ敵國ノ策戰計畫ノ資料ニ供スル

如キ行爲ヲナスコトヲ云フ間諜ヲ幇助ストハ間諜ヲシテ容易ナラシムル行爲ヲナス者ヲ云フ本項ハ間諜者並ニ間諜ノ幇助者ニ對シテハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處分ス可キコトヲ規定ス

第二項軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタルモノニ對スル罪ヲ規定シタル者ニシテ軍事上ノ機密トハ軍機ノ秘密ニ涉ル可キモノヲ云フモノニシテ敵國ト交戰上秘密ニ付ス可キ者ヲ云フ軍機ノ秘密ノ如何ナル場合ナルヤハ法文ニ之ヲ明記セザル故ニ各事實ニ付キ裁判官ノ事實認定ニ任スル外ナケレドモ軍隊ノ進退輸送增減戰鬪ノ時機軍艦ノ移動等ノ如キハ軍事上機密ト云フコトヲ得ベシ漏泄トハ之ヲ敵國ニ通知スルコトヲ云フモノニシテ其通知ノ方法ハ別ニ規定ナキヲ以テ言語信書其他如何ナル方法ナルヤハ之ヲ問フ處ニアラズ本項ヲ犯シタルモノハ亦前項ト同一ノ刑罰ニ處セラル

第八十六條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス（刑一三二）

本條ハ前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ

害シタル罪ニ干スル規定ナリ而シテ本條ノ犯罪ハ如何ナル場合ニ敵國ノ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又我國ノ利益ヲ害シタルヤハ各事實ニ付キ之ガ判斷ヲ要ス可キモノナレドモ多クハ敵國ニ利益ヲ與ヘタル結果ガ帝國ノ直接利益ヲ害スル場合ナルコトアリ若クハ單ニ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘンモ帝國ノ軍事上何等ノ影響ヲ受クルコトナキ場合アリ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害スルモ爲メニ敵國ニ利益トナラザルコトモアリ本條ノ場合ハ例令バ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ軍事品ヲ製造シ又ハ工作ヲ爲スモノガ敵國ヨリ賄賂ヲ受ケ其命令ニ違反シ遂ニ軍備ノ缺乏ヲ爲シタル如キ行爲ヲナシタルモノハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處セラル

第八十七條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ外患ニ干スル未遂罪ヲ罰スル規定ナリ未遂罪ノ如何ナルモノナルヤハ先ニ說明シタルヲ以テ再說セズ

第八十八條　第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルモノハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ第八十一條乃至第八十六條ノ外患ニ干スル

罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰スル規定ナリ豫備トハ實行ニ着手セザル以前ノ準備的行爲ニシテ第七十八條ノ內亂ノ豫備ノ說明ヲ見ルトキハ自ラ明カナラン陰謀トハ外患ニ干スル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ二人以上ノ間ニ秘密ノ協約ヲ爲スモノヲ云フ而シテ本條ヲ罰スル所以ハ事態重大ナルヲ以テ豫備又ハ陰謀ヲ罰スル事トセリ本條ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處セラル

第八十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

本條ハ外患ニ干スル本章ノ規定ニシテ戰時同盟國ニ對スルノ行爲ニ付キ適用ス可キコトヲ規定セリ戰時同盟トハ日本帝國ト他ノ獨立國ノ間ニ攻守同盟ノ條約ヲ締結シタル場合ニ於テ條約ノ結果其同盟國ハ我國ト利害同一ナルモノナリ然ルニ其同盟國ニ對スル敵對行爲ハ我國ニ對スル敵對行爲ト同一ニ看做スコトヲ得可キ者ナル故ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ例令ヘ戰時ニ於テ我國ト英國ト攻守同盟ノ條約ヲ爲シタルトキニ帝國臣民又ハ帝國內ニ在住スル外國人ガ露國ト通謀シテ英國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル如キ場合ニハ即チ本章各犯ノ規定ニ依テ處分セラル可キモノタルコトヲ規定シタルモノトス

第四章　國交ニ干スル罪

本章ハ國交ニ干スル罪ヲ規定シタルモノナリ國交トハ各獨立國間ノ交際ヲ云フモノニシテ即チ國際干係ヲ云フ人ト人トノ交際アル如ク國ト國トノ間ニ於テモ亦タ親交アルモノナリ其親交ヲ害シタル所爲ニ對シテハ本章各條ノ規定ニ依リ處分セラルベキモノトス

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタルモノハ三年以下ノ懲役ニ處ス但シ外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ帝國內ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行脅迫又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ヲ罰スル規定ナリ外國ノ君主又ハ大統領ハ一國ノ主權者ニシテ是等ノ貴賓ガ我國ニ滯在セラルヽ場合ニ於テハ國際干係上國賓トシテ特ニ尊敬優待ヲ爲ス可キコトハ寧ロ國民ノ義務ナリ然ルニ之等ノ貴賓ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘタルトキニハ國交ヲ害スルモノナ

ル故ニ特ニ本條ヲ設ケ其罪ヲ規定シタル所以ナリ

暴行トハ貴賓ノ身体ニ對シ不正ノ腕力ヲ加フルヲ云フ脅迫トハ傷害ヲ加フベキコトヲ以テ畏怖セシメ以テ自由意志ノ實行ヲ妨害スル處爲ヲ云フ而テ貴賓ニ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ハ普通ノ人ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘタル如ク暴行罪ヲ以テ之ヲ罰セズシテ特ニ本條ヲ設ケタル所以ハ國交上ノ特ニ尊敬優待スベキ人ナレバナリ第二項ハ侮辱ニ干スル罪ヲ規定シタル者ニシテ侮辱トハ形容言語其他身体ノ擧動ヲ以テ侮慢輕蔑意ヲ示ズヲ云フ貴賓ニ對シ斯ノ如キ侮辱ノ行爲ヲナシタル者ハ本項ノ罪ニ處セラル然シナガラ外國政府ノ請求ナキトキハ罪トシテ之ヲ論ズルコト能ハズ恰モ一私人ニ對スル誹毀罪ノ場合ノ如ク告訴ヲ以テ處分ス可キモノト同一ナリ

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタルモノハ二年以下ノ懲役ニ處ス但シ被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ帝國ニ派遣サレタル外國ノ使節ニ對シ暴行

脅迫又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ニ對スル罪ヲ規定シタルモノナリ

第一項ハ暴行脅迫ヲ使節ニ加ヘタル者ノ場合ニシテ使節トハ全權大使公使ノ如ク一國ノ代表ヲ爲スモノヲ云フ暴行脅迫ハ前條ニ説明シタル如シ是等ノ使節ニ對スル暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處セラルルモノトス

第二項ハ使節ニ對スル侮辱ノ規定ニシテ前條第二項ト同一ノ趣旨ニ基キ規定セラレタルモノナレバ全項ノ説ニテ充分之ヲ了解スルコトヲ得可シ

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ズ

本條ハ外國ヲ侮辱スル罪ヲ規定シタルモノナリ國ノ國旗其他ノ國章ハ或ル場合ニ於ケル國ノ代表ヲ爲スモノニシテ國旗ヲ樹立スル處ハ國權ノ及ブ處ナル故ニ國旗ニ對シテハ敬意ヲ拂フ可キハ國際上當然ノコトナリ然ルニ外國ヲ侮辱スル目的ヲ以テ其國旗ヲ破損シ又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處セラル本條ノ犯罪ハ

外國政府ノ請求ナキニ於テハ罪トシテ之ヲ論ズル能ハザルナリ

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲナス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但シ自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス（刑一三三）

本條ハ外國ニ對シテ私ニ戰爭ヲ爲スタメニ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ヲ罰スル規定ナリ國家ト國家ガ國交ノ斷絶シタル場合ニ於テハ戰爭ヲ爲スハ格別個人ガ徒ラニ外國ニ向テ戰爭ヲ爲スガ如キハ外國トノ親交ヲ破リ、爲メニ外患ヲ釀ス原因トナルモノナレバ本條ニ於テハ外國ニ對シテ私ニ戰爭ヲ爲ス目的ヲ以テ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處セラル者トス但シ自首シタル時ハ其罪ヲ免ゼラルルモノトス此規定ハ犯罪ヲ未發ニ防ガントノ主意ニ基キ規定シタルモノトス

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（刑一三四）

本條ハ局外中立ニ干スル命令ニ違背シタルモノヽ罪ノ規定ナリ局外中立トハ外國ト外國トノ交戰ニ

際シ國家ガ何レノ交戰國ニ對シテモ加担セズ中立ノ旨ヲ宣言シタルコトヲ云フ局外中立ノ宣言アリタル時ハ國民ハ國家ノ命令ニ服從スベキモノナルニ付キ其命令ニ基キ局外中立ヲ嚴守セザル可カラズ故ニ命令ノ違背者ニ對シテハ之ヲ處分セザル可カラズ茲ニ於テ本條ヲ設ケ其命令ニ違背シタル者ニ對シ制裁ヲ科ス可キモノトス之レ畢竟外患ヲ釀スノ虞レアルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケテ是レガ制裁ヲ規定シタルモノナリ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處セラル

第五章　公務執行ヲ妨害スル罪

本條ハ公務執行ヲ妨害スル罪ノ規定ニシテ公務トハ官吏公吏及議員等ガ其權限ニ基キ行フ可キ職務ヲ總稱ス本章ハ二ケ條ヨリ成立スル者ニシテ九十五條九十六條ニ於テ之ガ規定ヲ設ケタルナリ

第九十五條　公務員ノ職務執行ニ當リ之レニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲サラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

（刑一三九、一四〇）

際シ國家ガ何レノ交戰國ニ對シテモ加担セズ中立ノ旨ヲ宣言シタルコトヲ云フ局外中立ノ宣言アリタル時ハ國民ハ國家ノ命令ニ服從スベキモノナルニ付キ其命令ニ基キ局外中立ヲ嚴守セザル可カラズ故ニ命令ノ違背者ニ對シテハ之ヲ處分セザル可カラズ茲ニ於テ本條ヲ設ケ其命令ニ違背シタル者ニ對シ制裁ヲ科ス可キモノトス之レ畢竟外患ヲ釀ズノ虞レアルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケテ是レガ制裁ヲ規定シタルモノナリ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處セラル

第五章　公務執行ヲ妨害スル罪

本條ハ公務執行ヲ妨害スル罪ノ規定ニシテ公務ト ハ官吏公吏及議員等ガ其權限ニ基キ行フ可キ職務 ヲ總稱ス本章ハ二ケ條ヨリ成立スル者ニシテ九十 五條九十六條ニ於テ之ガ規定ヲ設ケタルナリ

第九十五條　公務員ノ職務執行ニ當リ之レニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

（刑一三九、一四〇）

本條ハ職務妨害ノ犯罪ニ干スル規定ナリ第一項ノ成立要件ハ

(一)公務員タルコト

(二)職務執行ヲ妨害スルコト

(三)暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト

(一)公務員ノ如何ナルモノナルヤハ先キニ說明シタル所ナリ

(二)此ノ公務員ガ行フベキ職務ハ權限內ニ於テ爲ス可キ務職タルコトハ勿論ナリ若シ權限內ノ行爲ニアラズンバ職務ニアラザレバナリ權限內ノ行爲トハ例令バ司法警察官ガ豫審判事ノ令狀ニ基キ犯罪人ヲ逮捕又ハ執行力アル正本ニ基キ執達吏ガ財產差押ヲ爲スガ如キ又ハ議員ガ議場ニ於テ其意見ヲ吐露スルガ如キヲ云フモノニシテ之レ皆職務執行ナリ是等ノ職務ノ執行ヲ妨害シテ初メテ本項ノ犯罪ハ成立スルモノナリ故ニ議員ガ自宅ニ於テ意見ヲ陳述スルカ又ハ司法警察官ガ非現行犯人ニ對シ何等ノ令狀ヲ有セズ逮捕セントスル場合ニ於テハ職務ニ在ラザル故例令之ニ對シテ對抗スルモ本條ノ犯罪ハ成立セズ是レ畢竟職務權限內ニアラザレバナリ

(三)暴行又ハ脅迫トハ不正ノ腕力又ハ自由意思ノ妨害ヲ云フモノニシテ第九十條ノ說明ニ付テ

之ヲ見ルベシ

第二項ハ暴行脅迫ヲ加ヘテ公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ又ハ爲サシムルタメ又ハ其職ヲ辭セシメンガタメニ爲シタル場合ニ對スル罪ヲ規定シタルモノニシテ公務員ハ其職務ニ基イテ行フ外職務ヲ執行スルコト能ハザルナリ然ルニ又ハ暴行脅迫ヲ加ヘ是ノ公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ又ハ爲サシメントシタル如キハ本項ノ制裁ヲ受ルモノトス公務員ノ辭職ハ法律ノ規定ニ依ルカ又ハ自己ノ自由意思ヘ基イテノミ其職ヲ辭スモノナリ然ルニ公務員ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ遂ニ其公務ヲ辭セシメタル如キハ本條ノ制裁ヲ免カレザルモノトス

第九十六條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス（刑一七四、一七五、一七六）

本條ハ公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ無効ナラシメタル場合ニシテ所謂封印廢棄罪ニ關スル規定ナリ公務員ノ施シタル封印又ハ差押トハ例令バ稅務官吏ガ酒造家ノ密造酒ノ發見ノ場合ニ於

テ之ヲ差押ヘ又ハ封印ヲ行フガ如キ又ハ執達吏ガ執行力アル正本ニ基キ他人ノ有体動産ヲ差押タルガ如キ場合ニ於テ其封印又ハ差押ヘタルコトヲ知ラシムルノ標示ヲ爲スモノナリ標示トハ一箇ノ標目ヲ云フモノニシテ其標目ヲ附サレタル物品ガ差押又ハ封印セラレタルコトヲ公然指示スルモノナリ其指示スル標目ヲ破壞スルカ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ差押ノ標示ヲ効力ナカラシメタル者ハ本條ノ規定ニ依リ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處セラル

第六章　逃走ノ罪

本章ハ逃走ニ干スル罪ヲ規定シタルモノニシテ法令ニ依リ拘禁セラレタルモノガ不法ニ脫出スル場合ニ適用ス可キ罪ヲ規定シタルモノニシテ第九十七條乃至百二條ニ於テ是ガ規定ヲ設ケタリ

第九十七條　既決未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス（刑一四二ノ一、一四四）

本條ノ既決又ハ未決ノ囚人ノ逃走ヲ規定シタルモノナリ既決トハ有罪判決確定ノモノヲ云ヒ未決トハ當時審理中ナル者ヲ云フ是等ノ者ガ獄舍ニ拘禁セラレタルトキニ不法ニ脫出シタル場合ニ於テ本

條ノ罪ハ構成スルモノナリ故ニ未決囚ガ保釋若クハ責付ノ爲ニ出獄スルガ如キハ命令ニ依リ若クハ許可ニ因リ出獄スルモノハ不法ノ脫出ニ在ラザルモノトス本條ヲ犯シタルモノハ一年以下ノ懲役ニ處セラル

第九十八條　既決未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ器具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタル時ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（刑一四二ノ二、一四五）

本條ハ既決未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ニ因リ拘禁セラレタル者ガ其拘禁場ヲ破壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ二人以上通謀シテ逃走シタル場合ニ對スル罪ヲ規定シタルモノナリ拘禁場トハ囚人ヲ拘禁スル爲メニ設ケタル場所ヲ云フモノニシテ監獄署若クハ警察署ノ留置場ノ如シ器具トハ囚人ヲ拘束スル用ニ供スル器械ヲ云フモノニシテ例令バ手錠鎖リノ如キヲ云フ囚人ガ拘禁場若クハ器具ヲ破壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ通謀シテ逃走シタル場合ニ於テハ前條ニ比シテ加重ノ情狀アルモノナル故本條ニ於テハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處分スベキコトヽナシタリ

第九十九條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（刑一四七）

本條ハ拘禁者奪取ニ干スル罪ヲ規定シタルモノニシテ拘禁奪取トハ既決若クハ未決其他拘引狀拘留狀ニ因リ拘禁セラルタル刑事被告人ヲ奪取ノ場合ニ對スル規定ナリ奪取トハ不法ニ拘禁者ヲ其拘禁場ヨリ奪ヒ去ル行爲ヲ云フ本條ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處セラル

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムル可キ行爲ヲナシタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス（刑一四六）

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ拘禁者ノ脫走ヲ容易ナラシメタル者ニ對スル罪ヲ規定シタルモノニシテ拘禁者トハ法令ノ規定ニ因リ一定ノ場所ニ拘禁セラルル者ヲ云フモノニシテ其拘禁者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ逃走ニ用スル器具ヲ給與シ又ハ其逃走ヲ容易ナラシメタ

ルモノハ本條第一項ノ規定ニ因リ三年以下ノ懲役ニ處セラル逃走ニ用スル器具トハ拘禁場ヲ破壞スル爲メニ要スル鋸ノ如キヲ云フモノニシテ若シ逃走ヲ容易ナラシムル爲メ暴行若クハ脅迫ヲ以テシタル時ハ第二項ニ於テ三月以上五年以下ノ懲役ニ處セラル

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタル時ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（刑一四八）

本條ハ拘禁者ヲ看守又ハ護送ス可キ職責ヲ有スル者ガ被拘禁者ヲシテ逃走セシメタル者ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ此罪ヲ犯シタル時ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處セラルルモノトス斯ノ如キ加重ノ刑罰ヲ設ケタル趣旨ハ一ハ其職責ヲ盡サザルニ因ルト二ハ犯罪ノ容易ナルガ爲メ特ニ本條ヲ以テ嚴刑ニ處スル所以ナリ

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（刑一四九）

本條ハ本章ノ犯罪ハ其未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノニシテ未遂罪ノ如何ナルモノナルヤハ第四十三條ノ說明ニ付テ之ヲ見ル可シ

第七章　犯人贓匿及証憑湮滅ノ罪

本章ハ犯人ノ贓匿及証憑湮滅ノ罪ヲ規定シタル者ナリ贓匿トハ他人ノ犯罪ヲ庇護スル爲メニ犯人タルモノヲ匿シ又ハ之ニ對シ潛匿スベキ場所ヲ供シタル如キヲ云フ証據湮滅トハ罪責ヲ晦ス爲メニ其罪ノ証據トナルベキ物件ヲ消滅セシメ又ハ僞造變造シタル如キヲ云フ本章ハ百三條乃至百五條ニ於テ各々其罪ヲ規定セリ

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該當スル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ贓匿シ又ハ隱避シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（刑一五一）

本條ハ犯人贓匿罪ニ干スル規定ナリ罰金以上ノ刑ニ當ル罪ヲ犯シタル者又ハ法令ニ因リ既ニ拘禁セラレタルモノガ逃走シタルコトヲ知ツテ之レヲ贓匿シ又ハ隱避セシメタルモノハ二年以下ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處セラル贓匿トハ匿レ場所ヲ支給スルヲ云フ隱避トハ其他ノ方法ヲ以テ官ノ發見逮捕ニ妨害ヲ與フル行爲ヲ云フ

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル証憑ヲ湮滅シ又ハ僞造變造シ若クハ僞造變